

## Ⅲ

# 子供の自尊感情や自己肯定感を高める 各教科等の実践事例

本章においては、「学習内容」と「指導方法」の2つの側面から12の実践事例を紹介しています。

自尊感情や自己肯定感を高めるという視点で、各教科等の日々の授業を充実させていくことが大切です。

# 1 **学習内容** を習得させることで 自尊心や自己肯定感を高める実践事例

## (1) 自己の成長を振り返る学習を通して高める 【特に重点とする観点 「A 自己評価・自己受容」】

### 「自己の成長を振り返る学習」とは

これまでの生活を振り返り、自分の成長や変化について自分自身で考えたり、友達に教えてもらったり認めてもらったりして、気付かなかった自分の成長を実感できるようにする学習です。主に観点「A 自己評価・自己受容」の内容に当たります。

#### 各教科等における「自己の成長を振り返る学習」の例

##### <教科等> 特別活動

卒業式、終業式、修了式などを節目とし、それまでの生活や学習を振り返り、自分の成長を確かめられるようにします。

##### <教科等> 国語

学期末や年度末などに、それまでの生活や学習について振り返り、作文等を書くことで自分の成長を実感できるようにします。

##### <教科等> 体育 保健体育

心や体の機能やその発達について知り、自分の成長の過程を理解できるようにします。

##### <教科等> 公民（高等学校）

生涯における青年期の意義を知り、自己の成長の過程を理解できるようにします。

### 実践事例1 小学校 第4学年 国語科

#### <本実践の概要>

班活動を取り入れ、努力して取り組んでいることについて互いに質問し、努力の成果を認め合うことで、自己の成長を振り返る活動を行います。

#### <内容の取扱い>

##### ○教材を通して、自分の成長を振り返り、次への成長につなげる態度を育成する

・自分自身を見つめたり、他者から認められたりすることで、自分のよさを実感できるようにします。

##### ○相手の話を肯定的に受け止める態度を育成する

・「聞き手」は、「話し手」の話を肯定的に受け止めていることを伝えられるよう、相づちを打ったり賞賛したりしながら話を聞くよう声掛けをします。

1 単元名 『今の自分』を話します」（東京書籍「新しい国語四上」）

2 単元の目標

- ・伝えたいことがはっきり分かるように、自分の考えや具体的な事例を挙げて話す。
- ・自分の体験と結び付けたり、自分の考えと比べたりしながら聞く。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
スピーチすることに興味をもち、自分の成長について考え、友達の成長について自分と比べながら聞くとしている。	自分のことを振り返り、伝えたいことがよく分かる題材を選んでいる。 伝えたいことがはっきり分かるように、具体的な事例や自分の考えを挙げながら話している。 友達が伝えたいことは何かを考え、自分と比べながら聞いたり、質問や感想を述べたりしている。	伝えたいことがよく分かるように話す内容を構成している。 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話している。

4 単元の指導計画（全6時間）

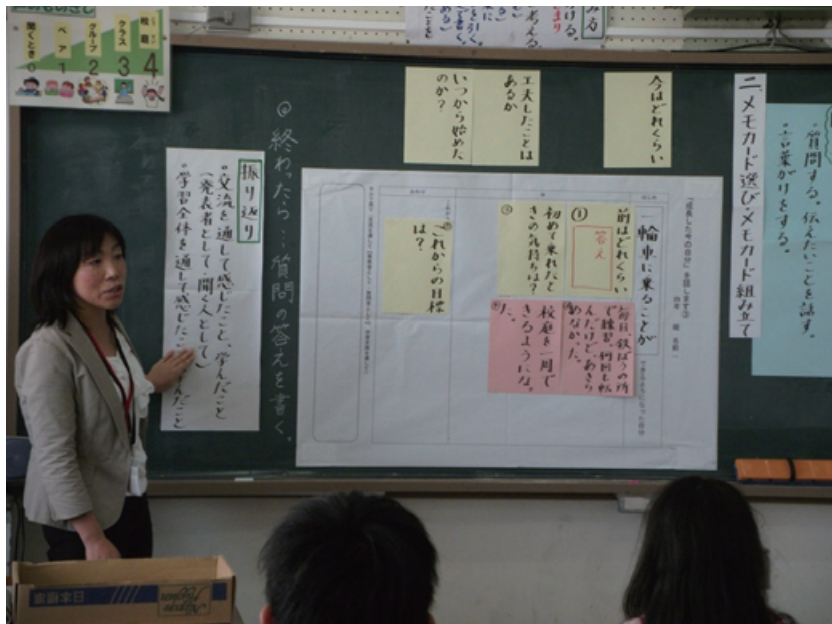
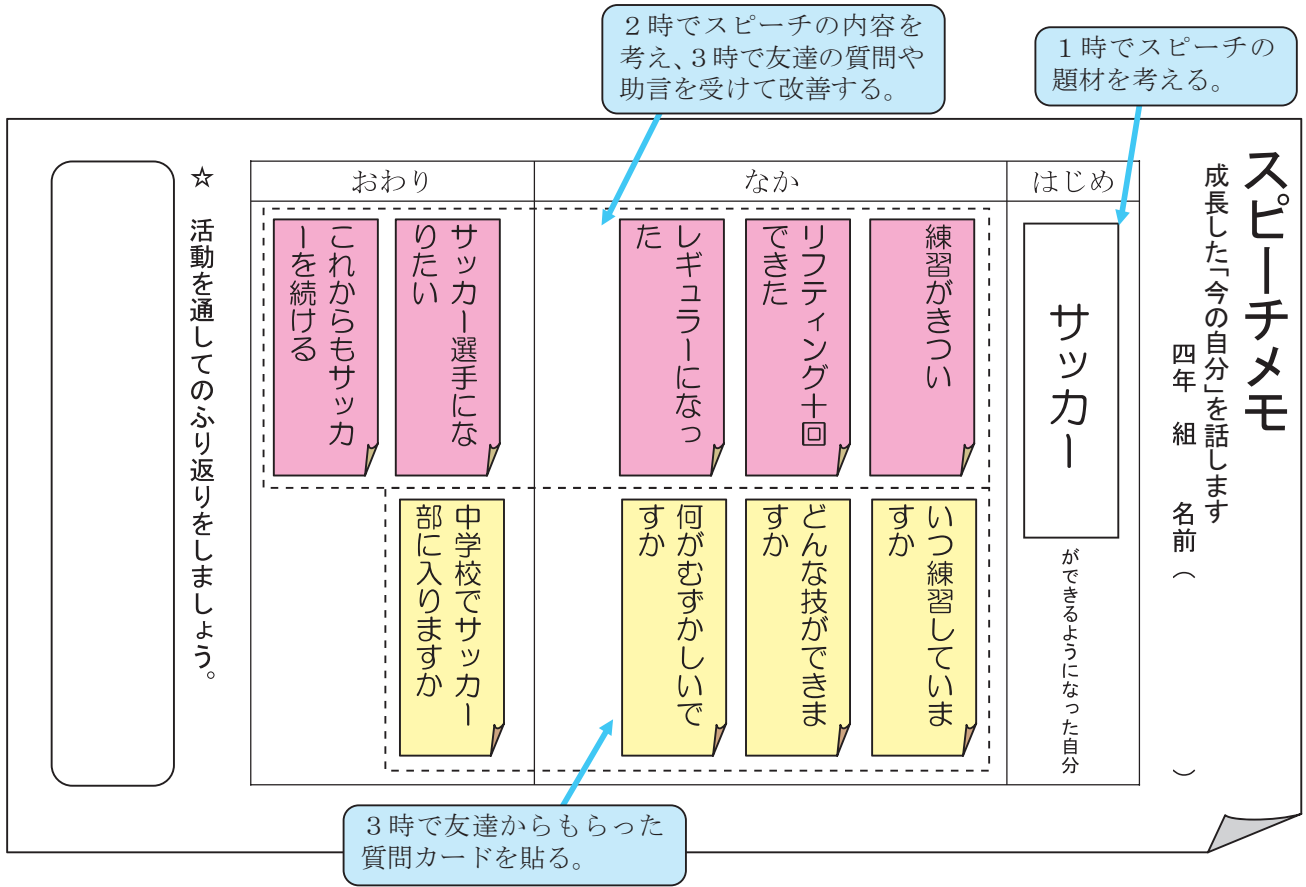
時	学 習 活 動
1	学習のねらいや流れを知る。 自分の成長を振り返り、スピーチの題材を考える。
2	伝えたいことの内容を決めてスピーチの内容を考え、スピーチメモを作成する。
3 本時	スピーチの題材、内容等について友達と助言し合う。 友達の助言を基に、スピーチメモを改善する。
4	スピーチメモを基に、スピーチ原稿を作る。 スピーチ原稿を使って、班で練習し助言し合う。
5・6	学級全体でスピーチをし、質問や感想を伝え合う。

5 本時の指導（本時3/6）

過 程	学 習 活 動	○指導上の留意点 ☆評価（ ）評価規準 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点
導 入	(1) 本時のめあてと学習内容を知る。 〈めあて〉 「友達と助言し合い、スピーチメモを改善しよう」	○子供が主体的に学習を進められるように黒板に前時までの学習の流れを掲示し、学習の見通しをもたせる。
展 開	(2) 前時までに考えたスピーチの題材や内容等について友達と助言し合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">＜話し手＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチの題材、内容、選んだ理由などを分かりやすく聞き手に伝える。</li> <li>・聞き手の助言を聞いたり、質問に答えたりする。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">＜聞き手＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手のスピーチの題材、内容、選んだ理由などを聞いて、助言したり、質問をしたりする。</li> <li>・質問したことを質問カードに書いて、聞き手に渡す。</li> </ul> </div> </div>	<p>■友達の話を聞き、友達の成長について肯定的に受け止めた上で、助言したり質問したりするようにさせる。 【A 自己評価・自己受容 ※③努力の評価】</p> <p>■友達の話を、相づちを打ったり賞賛したりしながら聞くように促す。 【A 自己評価・自己受容 ②相互理解】</p> <p>☆友達が伝えたいことは何かを考え、質問したり助言したりすることができたか。（話す・聞く）</p> <p>○スピーチメモをまとめられない児童には、「以前の自分→今の自分」という順序で組み立てるよう助言する。</p> <p>☆自分の成長がよく分かるように、内容や構成を工夫して、スピーチメモを改善することができたか。（知・理・技）</p>
ま と め	(4) 本時の学習を振り返り、次時のめあてをもつ。	○黒板に振り返りの観点を提示する。

※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照

6 資料



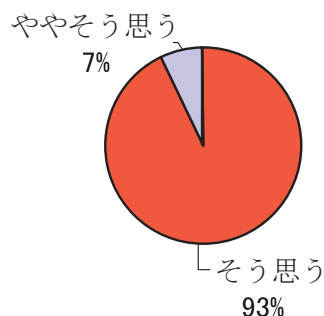
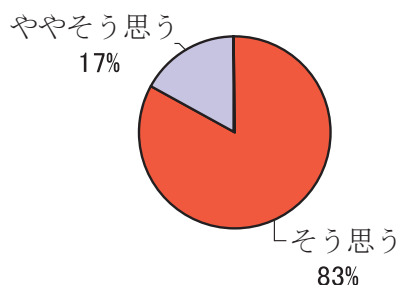
## 7 学習の効果

### (1) 児童全体の変容

#### 【学習後の自己評価から】

〈質問〉 自分の成長を相手によく分かるように話すことができた。

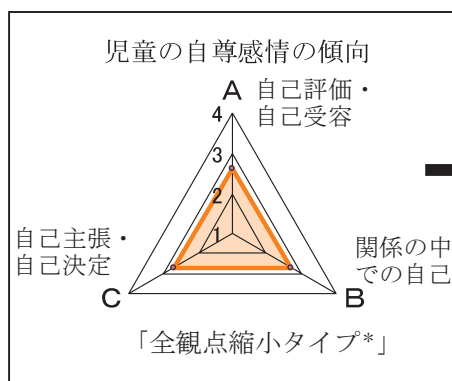
〈質問〉 自分がこれからどうしていきたいかを話すことができた。



#### 〈考察〉

単元のまとめに行ったアンケート調査では、2つの調査に対して、8～9割の児童が「そう思う」と回答していた。このことから、互いの成長について友達と伝え合うことを通して、自分では気付くことができなかつた自分の成長に気付くことができたと考えられる。

### (2) 個別の児童の変容



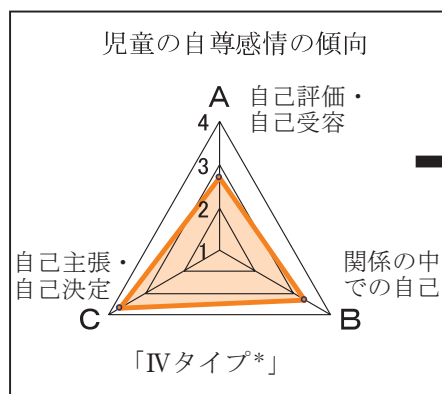
#### 〈学習後の児童の感想〉

みんなと比べると僕にはできないことが多いなと思っていただけ、1年生の頃と比べるとできることが多くなっていることが分かりました。



#### 〈考察〉

他者と比べて自分を見つめていたが、子供の活動の具体的な場面を捉えて褒めることで、自分なりの成長を感じられるようになった。



#### 〈学習後の児童の感想〉

私には得意なことはあまりないと思っていただけ、私が頑張ってやったことを班のみんなが「すごいね」と言ってくれたので、とてもうれしかったです。また、続けて頑張ろうと思います。



#### 〈考察〉

よさや個性を言葉にし、友達からよいところを直接に伝えてもらうことで、子供自身が自分の成長を肯定的に捉えられるようになった。

\*タイプについては、指導資料【基礎編】13～15ページを参照

## (2) 自己の個性を発見する学習を通して高める 【特に重点とする観点 「C 自己主張・自己決定」】

### 「自己の個性を発見する学習」とは

自分の長所や短所を様々な方法で理解し、それを自分の個性として大切にしていける態度を育てる学習です。主に観点「C 自己主張・自己決定」の内容に当たります。

#### 各教科等における「自己の個性を発見する学習」の例

##### <教科等> 道徳

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求できるようにします。

##### <教科等> 音楽 図画工作 美術

表現や鑑賞など幅広い活動を通して、自分の表現のよさや個性について気付くようにします。

#### 実践事例2 小学校 第6学年 特別活動（学級活動）

##### <本実践の概要>

自分の個性について学級の友達にインタビューを行い、友達から見た自分について客観的に捉えさせる活動を行います。

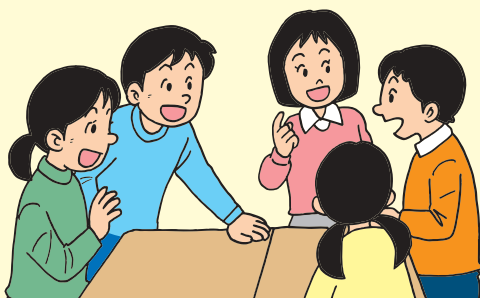
##### <内容の取扱い>

###### ○友達のよさについて考える場の設定

- ・学級の友達の言葉や行動を観察させたり、班活動や掲示物を作成したりする活動を通して、意図的に友達のよさに気付かせる場面を設定します。
- ・短所に思えることも見方を変えれば長所になることに気付かせ、より広く友達を捉えられるようにします。

###### ○友達のよさを伝える場の設定

- ・友達のよさを伝える場を設け、伝えられた児童が自分のよさや個性に気付き、自信をもつことができるようにします。その際に、よさや個性を伝えるだけでなく、具体的なエピソードを加える工夫をすることで、実感を伴えるようにします。



1 題材名 「友達が見付けてくれた！自分の個性再発見！」  
学級活動 (2) ウ 望ましい人間関係の形成

2 本時の目標

他者から見た自分の特徴を知り、自分らしさを伸ばそうとする態度を育てる。

3 本時の評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

4 本時の指導

過程	学 習 活 動	○指導上の留意点 ☆評価 ( ) 評価規準 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等
導入	(1) 本時のめあてと活動内容について確認する。 〈めあて〉 「友達の個性を表したキャッチフレーズを作ろう」 〈活動内容〉 ・自分の個性集めをする。 ・友達のキャッチフレーズを作る。	○前時までの活動の流れと本時の活動内容を確認し、本時の活動の見通しをもたせるとともに、活動への意欲をもたせる。
展開	(2) 友達にインタビューし、「よい点」「改善点」や、それぞれのエピソードを「友達の個性発見カード」に書く。  (3) 「よい点」「改善点」を踏まえて友達のキャッチフレーズを作り、「改善点」を「プラスに変身」させるためのアドバイスを「キャッチフレーズカード」に書く。  (4) 作ったキャッチフレーズを紹介し合う。	■学級の友達にインタビューし、友達から見た自分について客観的に自分の個性を捉えられるようにする。 【C 自己主張・自己決定 ※②個性の認知】 ○なかなかインタビューをする友達が見付からない児童には、意図的にグループを組ませるよう教師が声掛けをする。 ○できるだけ多くの友達から情報を集めるようにし、児童に新たな発見をさせる。  ○キャッチフレーズを作る際には、よい点だけではなく改善点も加味して考えるよう助言する。 ○カードをもらった相手が自分の個性として肯定的に捉えることができるよう、改善点を「プラスに変身」させる助言をするよう促す。 ■教師や友達からの声掛けにより短所も見方を変えたと長所になることを意識させ、自分のよさに着目できるようにする。 【C 自己主張・自己決定 ②個性の認知】  ○キャッチフレーズだけではなく、なぜそのキャッチフレーズにしたのか理由も発表させるようにする。 ○友達からキャッチフレーズをもらった児童に感想を聞き、友達に自分の気持ちを伝えるようにする。
まとめ	(5) 自分の「よい点」だけでなく、友達の「よい点」を知り、どのように行動していくか考える。 (6) キャッチフレーズをもらった感想を書く。	○自分の「よい点」をさらに伸ばし、友達の「よい点」を取り入れるなど、今後の自分の行動に生かしていくよう助言をする。 ☆他者から見た自分の個性を知り、自分らしさを伸ばすための行動を考えたことができたか(思・判・実)

※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照

友達の個性発見カード

6年組 名前 ( )

	個性	エピソード
よい点	思いやりがある	よく1年生の弟の面どうを見えています。一学期の終わりのとき、お道具箱とか、朝顔の植木ばちとか、重い荷物を持ってあげていました。

	個性	エピソード
改善点	がんこ	学級のみinnでやる遊びについて班で話し合ったとき、どうしても自分のやりたい遊びを変えなかった。

友達の「よい点」と「改善点」について、エピソードを付けてカードに書いてもらうことにより、カードをもらった児童は、具体的な場面を想起して自分の個性を捉えることができる。



キャッチフレーズカード

6年組 名前 ( )

(キャッチフレーズ)

〇〇さんは、頼りがいのあるクラスのお兄さん

(よい点) 思いやりがある

(改善点) がんこ

プラスに変身!!

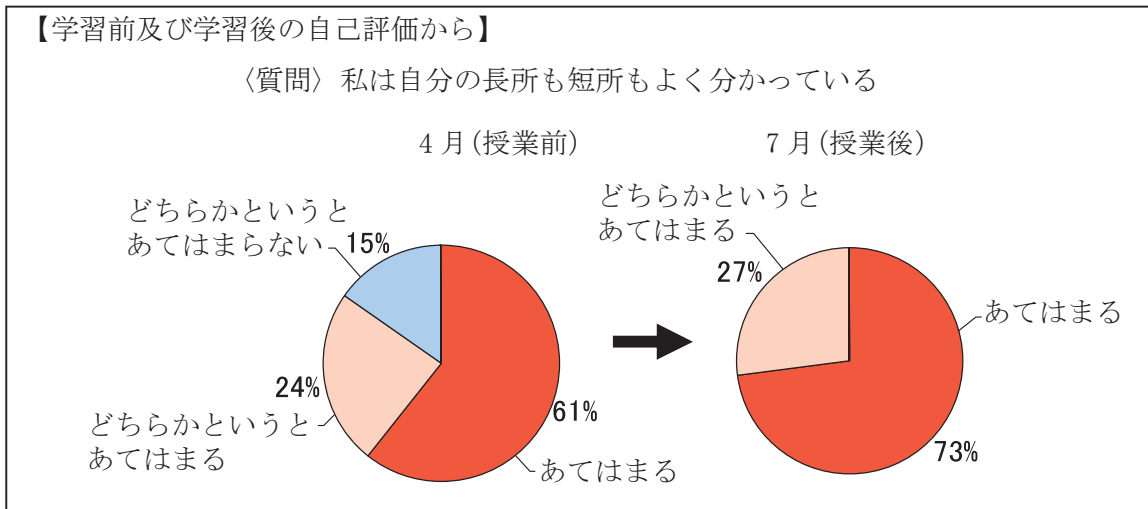
「改善点」を「プラスに変身」させるアドバイスを記入することにより、カードをもらった児童が具体的な行動として、今後の自分の行動を考えることができる。

〇〇さんは、だれに何を言われても自分の意見を変えないのは、しっかりとした自分の考えをもっているからだと思います。今度は、弟のことを考えるときに、友達の意見も聞いて、友達のことを考えた意見が言えるようになると、もっとよいと思います。



## 6 学習の効果

### (1) 児童全体の変容

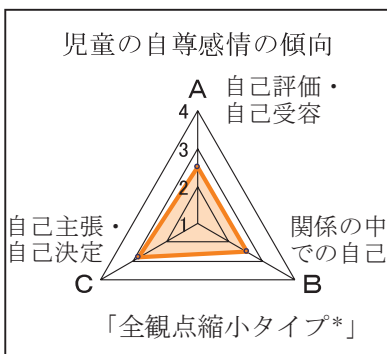


#### 〈考察〉

学習後に実施した自己評価シートでは、「私は自分の長所も短所もよく分かっている」という質問項目に肯定的な回答をしている児童が100%に達した。

授業を通して、自己の個性を捉えられるようになったと考えられる。

### (2) 個別の児童の変容



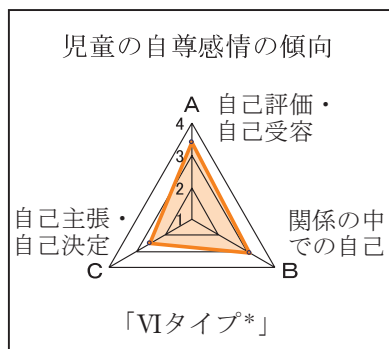
#### 〈学習後の児童の感想〉

私のプラス面を書いてくれて嬉しかったです。自分が気付かないところも見付けてくれたから、ちょっと驚きました。



#### 〈考察〉

自分のよさを認められたり、自分では気付かなかったよさを発見してもらったりしたことで、自分の個性を客観的に捉えられるようになった。



#### 〈学習後の児童の感想〉

友達は、自分と同じ改善点を挙げていました。でも、「プラスに変身」する答えは違いました。色々な見方ができるのだなと思いました。



#### 〈考察〉

友達から、自分の短所を長所として認められたことで、様々な見方で自分の個性を捉え直すことができるようになった。

\*タイプについては、指導資料【基礎編】13～15ページを参照

### (3) 生命の尊さを考える学習を通して高める 【特に重点とする観点 「B 関係の中での自己」】

#### 「生命の尊さを考える学習」とは

生命について考え、自分や他者の存在の大切さに気付き、互いに認め合えるようにする学習です。主に観点「B 関係の中での自己」の内容に当たります。

#### 各教科等における「生命の尊さを考える学習」の例

##### <教科等> 道徳

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重できるようにします。

##### <教科等> 生活 理科

飼育・栽培活動や、生命について理解を深める学習を通して、生命あるものへの愛着をもち、大切にしていることとする態度を育てます。

##### <教科等> 体育 保健体育

健康・安全に関する理解を通して、自他の生命を大切にできるようにします。

#### 実践事例3 中学校 第2学年 理科

##### <本実践の概要>

本実践では、「卵生」と「胎生」について知り、動物による生存率の違いについて理解する学習を通して、今ある私たちの生命は、たくさんの人々に支えられて与えられたものであることについて考え、生命を大切にすることを養う学習活動を行います。

##### <内容の取扱い>

##### ○動物の生態について知ること、自分の生命について考える

動物のからだや生命の誕生の様子について知ること、人間はたくさんの人々に守られ、支えられて生きている存在であることに気付かせ、一人一人の生命を大切にしていこうとする態度を育てます。

##### ○班の中での話合いや班同士の討論を取り入れ、互いの考えのよさに気付く

班での話合いでは全員が参加できるように助言し、討論では生徒の考えのよいところを褒め、学級全体に広げようとする。

#### 1 単元名 「動物の世界」

#### 2 本時の目標

- ・親が世話をしない動物や小さな動物は、外敵から狙われやすいので産卵数が多いことや、胎生は卵生より子の生存率が高いことを理解する。
- ・哺乳類は、魚類や両生類、爬虫類のように成長と生存を偶然に任せるのではなく、親が外敵から守り成長を支えていくことを理解し、合わせてそのようにして守られてきた自分の生命について考える。

#### 3 単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
動物のからだのつくりと働き、動物の仲間に関する事象・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究するとともに生命を尊重し自然環境の保全に寄与しようとする。	動物のからだのつくりと働き、動物の仲間に関する事象・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察・実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを表現している。	動物のからだのつくりと働き、動物の仲間に関する事象・現象についての観察・実験の基本操作を習得するとともに、観察・実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	動物のからだのつくりと働き、動物の仲間に関する事象・現象について基本的な概念、多様性や規則性を理解し、知識を身に付けている。

#### 4 単元の指導計画（全35時間）

次	時	学習活動
	1	「動物の飼育と観察」
1	2～6	「生物と細胞」細胞のつくり、単細胞生物と多細胞生物
2	7～20	「動物のからだのつくりとはたらき」消化と吸収、呼吸のはたらき、血液の循環、排泄のしくみ、刺激と反応、からだ動くしくみ
3	21～28 (23本時)	「動物の分類」動物の分類、無脊椎動物
4	29～35	「生物の変遷と進化」脊椎動物の出現と進化、進化の証拠



## 5 本時の指導

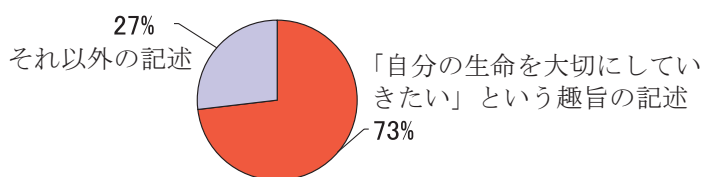
過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ☆評価 ( ) 評価規準 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等
導入	(1) イクラやタラコなどの卵は、どの魚から生まれてきたのか既習事項を整理する。	○人間の食物となっている卵を例にして、どの魚から生まれてきたのか整理させ、動物の産卵について興味をもたせる。
展開	(2) 動物の産卵数が、種によって違う理由を理解する。 ・食べられてしまう危険のある動物の卵は多い。 ・親が世話をしない動物は襲われる危険性があるので多い。 (3) マグロとイワシの産卵数はどちらが多いか、個人で考える。 ・マグロの方が強いので、イワシが多い。 (4) 「マグロの方が体が大きいのに、なぜ産卵数が多いのか」について、班で考えをまとめ、討論を行う。 (5) 「卵生」と「胎生」について知り、生存率の違いについて理解する。	○個人で理由を考えさせた後、班で交流させて意見をまとめ、生徒の考えから正解を導くようにする。 ○様々な動物が、種の保存のために工夫して知恵を使っていること、それぞれに適合した形で進化してきたことを話す。 ○マグロの方が産卵数が多いことを伝え、問題意識をもたせる。 ○班でまとめた考えは黒板に板書させ、学級全体で共有できるようにする。 ■班での話し合いでは全員が参加できるように助言し、討論では生徒の考えのよいところを褒め、学級全体に広げようとする。 【B 関係の中での自己 ※①他者理解】 ○「大きな強い魚でも生後すぐは小さく弱い魚で、むしろ成体になるまで時間がかかって生存率が低くなるため、産卵数が多い」ことを伝える。 ☆「卵生」と「胎生」について理解することができたか。(知・理) ■卵生と胎生の説明の中で、人間はたくさんの人々に守られ、支えられて生きている存在であることに気付かせ、一人一人の生命を大切にしていこうとする態度を育てる。 【B 関係の中での自己 ④支えの気付き】
まとめ	(6) 生命についての自分の考えをワークシートに記入する。	☆生命についての自分の考えをまとめているか。(思・表)

※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照

## 6 学習の効果

### (1) 生徒全体の変容

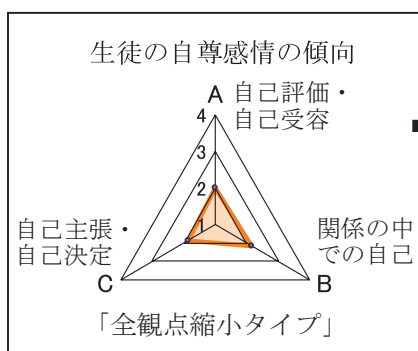
【学習後の感想（自由記述）から】



#### 〈考察〉

「この授業で、自分がいろいろな人に守られて生きてこられたことがよく分かった」などの記述があり、生命の大切さについて考えることができた生徒が多かったことがうかがわれる。

### (2) 個別の生徒の変容



#### 〈学習後の生徒の感想〉

生命は先祖代々受け継がれてきたもので、すごく大切なものだと感じました。しっかり悔いのない生き方をして、次の世代に継いでいきたいと思っています。



#### 〈考察〉

生物の生きるための工夫や生き延びる難しさ等を学んだことから、生命がかけがえのないものであることに気付き、大切に生きていこうとする気持ちをもつことができた。

\*タイプについては、指導資料【基礎編】13～15ページを参照

## (4) 友情の尊さについて考える学習を通して高める 【特に重点とする観点 「B 関係の中での自己」】

### 「友情の尊さについて考える学習」とは

友達の成長を願い、励まし合い、高め合おうとする態度を育てていく学習です。主に観点「B 関係の中での自己」の内容に当たります。

#### 各教科等における「友情の尊さについて考える学習」の例

##### <教科等> 道徳

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合えるようにします。

##### <教科等> 特別活動

学級や学校の友達と信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活を送れるような活動を行います。

##### <教科等> 国語 音楽

友情をテーマにした物語や歌などを教材とした学習で、友情の尊さを実感できるようにします。

### 実践事例 4-① 中学校 第1学年 道徳

#### <本実践の概要>

友達のよさを認め、互いに助け合い励まし合う友情をテーマとした読み物資料を基に、感想や考えを伝え合い、友情の価値について理解していきます。

#### <内容の取扱い>

##### ○身近な友達のよさを互いに伝え合う場の設定

- ・友情の尊さを主題とした読み物資料を読んだ後に、班や学級の友達のよさや友達への感謝の気持ちを伝え合う活動を取り入れます。

##### ○道徳授業地区公開講座等を活用し家庭・地域に発信する取組

- ・道徳授業地区公開講座の機会を活用し、全学年で「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」(88～89ページ)を指導計画に位置付けた授業を公開して、学校の取組を家庭・地域に広めます。
- ・家庭や地域も対象にした、自尊感情や自己肯定感を高める教育の理解を深めるための講演会や意見交換会などを行います。

1 主題名 「真の友情を築く」 内容項目 2-(3)

資料名 「ちいちゃんの手」(「中学校道徳1 明日をひらく」東京書籍)

2 本時の目標 友達よさを認め、互いに助け合い、励まし合う真の友情を育てようとする心情を育む。

3 本時の指導

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等
導入	(1) 友達関係について感じたことを話し合う。	○友達関係の在り方に焦点化させていく。
展開	(2) 「ちいちゃんの手」を読んで話し合う。 ①みんなはどのような気持ちから千津子を長距離の選手に選んだのか。 ・押し付けて困らせようとした。 ・自分が走るのはいやだ。 ②「わたし」は千津子のことをどう思ったか。 ・気の毒だ。 ・励まし、慰めてあげたい。 ③千津子はどのような気持ちから長い爪を短く切ってきたのだろうか。 ・自分のことを認めてくれた友達の気持ちを考え、不愉快な思いをさせないようにしよう。 ・爪を長くとがらせ友達にいやな思いをさせていたので何とかしよう。 (3) 班で交流し合い、互いのよいところを発見する。 ・班の人のよい点、努力した点、感謝したい点などをカードに記入する。 ・それぞれが書いたカードを班で読み合う。	○話し合いを通して、友達として望ましい在り方を考えるよう助言する。 ○千津子がいけないことを知りながら、なぜ爪を切らなかったのか、千津子の気持ちを十分に理解することができるようにする。 ○相手を肯定的に捉えることによって感じる自分の気持ちの変化に気付くようにする。 ■互いのよい点、努力した点、「ありがとう」と言いたいことなど、相手のよさに着目し、互いの考え方や努力したことを肯定的に認め合うとともに、認め合うことのよさを感じられるようにする。 【B 関係の中での自己 ※②理解者の存在の気付き】
まとめ	(4) 教師の説話を聞く。 (5) 交流した感想や、自分のよさを今後どのように生かしていくかなどを、カードに記入する。	○交流の感想を聞き、子供たちの交流活動のよかった点を挙げ、互いを知り合うことの大切さについて気付くようにする。 ☆生徒の記述の中に友達よさを認めたり感謝したりする様子が見られたか。

※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照



カード

**班の「○○○○」さんへ**  
 一緒に班になってありがとう！  
 あなたのよいところ見付けたよ！

○月○日

「○○○○」より  
 話し合いの時は、いつも意見を出してくれてありがとう。

「○○○○」より  
 音楽祭では、ピアノの伴奏をしてくれてありがとう。歌いやすかったです。

「○○○○」より  
 校外学習で、ゴミの分別をしてくれてありがとう。

## ちいちゃんをつめ

文●生徒作文

千津子（ちづこ）をつめは長くつがっていることで有名だった。わたしたちの学校で二三年前、つめの長い女生徒が不良の仲間になった事件があった。それから学校では、つめのことに厳しくなった。にもかかわらず、千津子（ちづこ）のつめは長かった。それで彼女（かのじょ）は不良あつかいされていた。

五月、もうすぐ運動会が始まる。それで放課後みんな残って、だれをどの種目に出すかについて話し合った。最後に女子（むすめ）の長距離走（ながきょりそう）だけが残った。女子（むすめ）はみな出たがらなかった。どこからか、

「あんなきついこと、だれがするもんですか。」

という声が聞こえてきた。そしてヒソヒソとなにか話し合っていた。しばらくしてその中の一人が、千津子（ちづこ）を推（お）せんした。周りの女子（むすめ）がいつせいに賛成（さんせい）した。

「水野（みづの）さん、いいですか。」

みんなは千津子（ちづこ）を見た。それは冷たい目だった。千津子（ちづこ）ははずかしそうに、半分悲（かな）しそうに、「はい。」とだけ答（こ）えた。

いよいよ今日は運動会。みんな体操服（たいそうふく）に着（き）かえて、それぞれのテントの中に入（い）っていった。千津子（ちづこ）は、わたしのとなりのテントの中（なか）にいた。みんなは千津子（ちづこ）のことなど気（き）にもとめないで、競技（けいぎ）を熱心（ねっしん）に見（み）ていた。わたしは親友（おんなじとも）の奈美（なみ）のことも忘れて、ずっと彼女（かのじょ）を見ていた。

「女子長距離走（むすめながきょりそう）」という放送（ほうそう）が流（なが）れた。ちらっと千津子（ちづこ）がわたしを見（み）たような気が（き）した。するとどうしたことか、わたしの足（あし）が勝手に動（うご）いて千津子（ちづこ）の前（まえ）でとまった。まるで、なにもものか（もの）にあやつられているようだった。

「がんばってね。」

それだけ言うと、相手（あいて）の顔（かほ）を見（み）ないでわたしは自分のテントの中（なか）へ入（い）っていった。背（せ）中に千津子（ちづこ）の視線（しせん）を感じ（か）ながら。

長距離走（ながきょりそう）は終（お）わった。おどろいたことに、千津子（ちづこ）が二着（にせき）の選手（せんしゅ）を百メートル近くもはなしての一着（いちせき）だった。予想（よそ）もしなかつたことである。彼女（かのじょ）があんなに速（はや）いなんて……。

わたしはすぐに「おめでとう。」と言（い）おうとした。しかし、それは声（こゑ）にならなかつた。しばらくして、わたしの「おめでとう。」と彼女（かのじょ）の「ありがとう。」が同時（どうじ）に聞（き）こえた。いつしゅん、二人（ふたり）ともぼーっとしていたが、われに返（かえ）るといつしよに笑（わら）いだした。そうして、わたしたちは握手（あしあひ）をしながらもう一度（いちど）、「おめでとう。」と「ありがとう。」をくり返（かえ）した。

午（ひる）後の部（ぶ）に入（い）って、学級対抗（がくきゅうたいかう）リレーとなつた。彼女（かのじょ）とはよくよく縁（えん）があつて、わたしは彼女（かのじょ）からバトン（baton）をわたされることになつてた。わたしは少し緊張（きんじやう）した。彼女（かのじょ）はとても速（はや）い。それで、わたし（わたし）が走（は）ってぬかれてしまつたら、という考（かんが）えが頭（かぶ）にあつたからだ。

わたしは目を閉（こ）じて深呼吸（しんせき）をした。彼女の足音（あしな）が近（ちか）づいてきた。もう少しでタッチ（touch）というとき、

「がんばってね。」

と、千津子（ちづこ）が言（い）った。わたしは、ようし、という気持（きもち）になつて走（は）った。そうして、わずかの差（さ）でわたしたちのクラス（class）が勝（か）った。走り終（お）わつて千津子（ちづこ）に、

「ありがとう。」

と言（い）った。すると千津子（ちづこ）は、

「ううん、わたしのほうこそ。長距離走（ながきょりそう）のとき、あれだけ走（は）れたのはあなたのおかげよ。」

と言（い）った。おたがいさまという顔（かほ）つきで笑（わら）い合（あ）った。

（どうしてこんな彼女（かのじょ）が、不良（ひょうりやう）の仲間（仲間）なんかになれよう。）

ふと、わたしはそう思（おも）った。

学校（がっこう）からの帰（かえ）り道（みち）、わたしは奈美（なみ）と、千津子（ちづこ）のことについて長い間（ま）話（わ）し合（あ）った。そうして、これからは親（おん）しみをこめて、千津子（ちづこ）のことを「ちいちゃん」と呼（よ）ぶことにした。

翌（あした）日（ひ）、わたしたちは早（はや）めに学校（がっこう）に來（き）て、千津子（ちづこ）の來（き）るのを待（まち）った。

「おはよう、ちいちゃん。」

わたしたちは声をそろえて言った。いっしょに千津子はもちろん教室にいたみんなもびっくりにしたようだった。そうしてだがいに顔を真合わせていたが、やがて笑いだした。どうやらみんなも、千津子のことを理解したらしかった。すると千津子はわたしたちのところへやってきて、

「ありがとう。」

と言いながら二人の手をにぎりしめた。笑ってはいけれど、千津子の目はなみだ色になっていた。

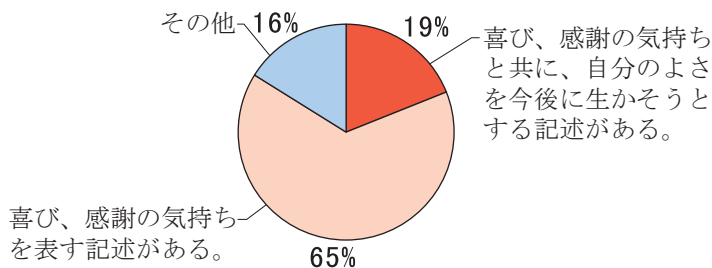
次の朝、千津子が、はずかしげにわたしの目の前に両方の手を差し出した。わたしはおどろいた。千津子のつめが短く切ってあったのだ。

蔵原豊子作『われら中学生第3集』（文英堂）「ちいちゃんの爪は短かった」による

## 5 学習の効果

### (1) 生徒全体の変容

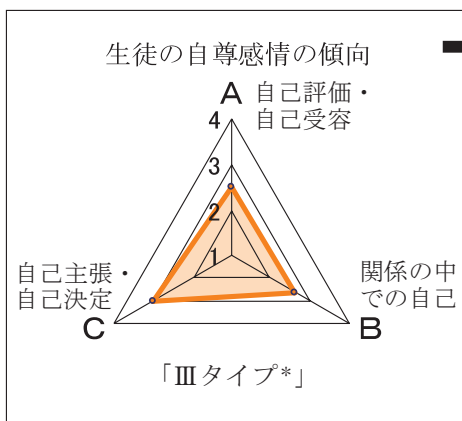
【学習後の感想（自由記述）から】



#### 〈考察〉

友達に自分のよいところを伝えてもらう活動を通して、8割以上の生徒が、素直に喜びや感謝の気持ちを表現していた。さらに2割の生徒は、伝えられた自分のよさを生かしていこうとする記述をしていた。活動を通して、友達と認め合い、励まし合うことのよさを感じることができたと考えられる。

### (2) 個別の生徒の変容



#### 〈学習後の生徒の感想〉

「ありがとう」という言葉はとてもいい言葉だし、言っても言われてもよい気持ちになります。自分も今後は言っていきたいです。



#### 〈考察〉

班の6人の友達から「盛り上げてくれる」「楽しい」「ありがとう」などの言葉を掛けられたことを素直に喜んでいる。また、認め合うことのよさも感じる事ができている。

\*タイプについては、指導資料【基礎編】13～15ページを参照

## 実践事例4-② 中学校 第2学年 道徳

### <本実践の概要>

互いに支え合い、高め合う友情をテーマにした読み物資料を基に、感想や考えを伝え合い、よりよく友達と関わっていこうとする態度を育てます。

#### 1 主題名 「友と高め合う」 内容項目 2-(3)

資料名 「友達ライバル」(「きみがいちばんひかるとき②」光村図書出版)

#### 2 本時の目標 互いに支え合い、高め合うことによって育まれる友情があることを理解し、よりよく友達と関わっていこうとする態度を育てる。

#### 3 本時の指導

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等
導入	(1) 「友達ライバル」という言葉から、これまでの友達との関わりを振り返る。	○ライバルとなる友達の存在の有無や、その友達との関わりなどについて考えるように助言する。
展開	(2) 「友達ライバル」を読んで、支え合い、高め合う友情について自分の考えを深める。 ①「ほく」はどのような気持ちから康夫のシュートが決まるのを妬ましく見ていたのだろうか。 ・康夫の技術が高まっていくことに焦りを感じていた。 ②康夫だけがレギュラーに選ばれたとき、二人はどんな気持ちだったか。 ・「ほく」は、自分がみじめで、康夫が憎らしくなった。康夫は、自分だけ選ばれると申し訳ないと思った。 ③「ほく」は康夫の言葉によって、どんなことに「はっと気が付いた」のか。 ・自分は康夫に支えられていたが、逆に自分も康夫を支えていたこと。  (3) 学校生活を振り返り、どのような場面で友達に支えられているか考える。 ①ワークシートに記入する。 ②班や学級で伝え合う。	○「ほく」の康夫に対する気持ちの変化が現れている表現を押さえ、「ほく」の焦りや嫉妬の感情を理解できるようにする。  ○2人が互いに支え合い、高め合っていたことに「ほく」が気付いたことで、真の信頼関係が生まれたことを理解できるようにする。  ○学習、生活、部活動など、学生生活全体を振り返り、友達によって支えられたり、高められたりした経験について伝え合えるようにする。 ■友達の存在が学校生活を充実させているとともに、一人一人の活動は周りの人の助けがあって成り立っていることに気付くようにする。 【B 関係の中の自己 ※④支えの気付き】
終末	(4) 教師の説話を聞き、これからの友達との関わり方について考える。 ①これからの生活で、友達とどのように関わっていくか、自分の考えをワークシートに記入する。	☆生徒の記述から友達と支え合い、高め合うことを大切にして関わっていこうとする姿を見ることができたか。

※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照



## 実践事例 4 - ③ 中学校 第3学年 道徳

### <本実践の概要>

友達関係のよりよい在り方をテーマとした資料を基に、感想や考えを伝え合い心から信頼できる友情の尊さについて理解を深めていきます。

- 1 主題名 「信頼できる友達」 内容項目 2 - (3)  
資料名 「友達関係って……」(「中学校道徳3 明日をひらく」東京書籍)
- 2 本時の目標 友達関係のよりよい在り方を考え、心から信頼できる友情を育てようとする態度を養う。
- 3 本時の指導

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等
導入	(1) 友達関係について話し合う。 ①どのようなとき、友達がいてよかったと思ったか。 ②理想の「友達関係」とはどのような関係か。	○自分自身の体験を振り返らせ、一人一人が友達関係についてしっかりと考えることができるようにする。
展開	(2) 「友達関係って……」を読んで話し合う。 ①資料中の発言について、それぞれどう思うか。 ・「仮面友達」という関係について、私たちにもあり得ると思う。 ・適当には付き合うが、深くは付き合わないという気持ちが分かる。  ②「相手の身になって一步踏み込むタイプ」「相手の内側まで踏み込まないタイプ」、自分はどういうタイプかを自由に考えさせる。  「相手の身になって一步踏み込むタイプ」 ・上辺だけの付き合いは、心から信頼できる友達関係とは言えない。  「相手の内側まで踏み込まないタイプ」 ・相手のプライバシーもあることだから、そんなに相手の内側まで入り込むわけにはいかない。  (3) 学校生活を振り返り、自分自身の友達関係について考えるとともに、よりよい友達関係の在り方について考える。 ①あなたは、友達とどのような関係をつくっていきたいか。	○資料中の発言に対して、子供自身の考えを引き出しながら、よりよい友達関係の在り方について考えるようにする。  ○友情の重要性について強調するだけでなく、生徒の率直な考えを話すことができるように小集団の話し合いなどを取り入れ、互いの考えを伝え合うことができるように助言する。  ■互いの考えや経験したことを伝え合うことを通して、人には様々な考え方があること、困難や悩みを克服しようとしていることについて気付くようにする。 【B 関係の中での自己 ※①他者理解】
終末	(4) 教師の説話を聞く。	☆よりよい友達関係の在り方について意識し、友情の尊さについて考えることができたか。

※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照

(5) 主体的に進路を考える学習を通して高める  
【特に重点とする観点 「A 自己評価・自己受容」「C 自己主張・自己決定」】

「主体的に進路を考える学習」とは

自己の個性を見つめ理解した上で、将来のことを考えたり、自分の意志で進路を選択したりできるようにする学習です。主に観点「A 自己評価・自己受容」及び「C 自己主張・自己決定」の内容に当たります。

各教科等における「主体的に進路を考える学習」の例

＜教科等＞ 特別活動 総合的な学習の時間

「職場体験」「インターンシップ」「ボランティア体験」などの体験活動等を通し、勤労や職業に対する理解や認識を深めます。

＜教科等＞ 社会科

「産業と人々の生活」「地域の人の仕事調べ」などの学習を通し、様々な職業や生き方があることや、働くことの大切さや大変さを理解します。

＜教科等＞ 道徳

勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努められるようにします。



実践事例5 高等学校 第1学年 特別活動（ホームルーム活動／キャリア・ガイダンス）

＜本実践の概要＞

様々な方法で自分のよさや個性について考え、受容するとともに、自らの職業適性について理解することで、将来に向けて自分をよりよく生かしていく方法を考えていきます。

＜内容の取扱い＞

○複数の方法による自己の個性の理解

・次の3つの方法で自己の個性を理解できるようにします。

方法1・・・自己を見つめ直す。

方法2・・・適性検査や心理検査など客観的なデータに基づいて自己を分析する。

方法3・・・自分に対する友達や教師の評価から自己を見つめ直す。

○主体的に進路の選択ができるようになるための留意点

・次の3点について留意します。

留意点1・・・自分自身の思いや願いを大切にするように助言する。

留意点2・・・自分自身のよさや個性を改めて考える活動を行う。

留意点3・・・進路に関する確かな情報や適性検査等の客観的なデータを提供する。

# 1 題材名 「個性と適性」

- ホームルーム活動 (2) イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- (3) エ 進路適性の理解と進路情報の活用

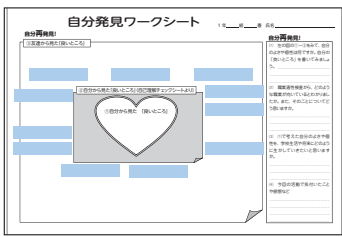
## 2 本時の目標

様々な方法で自分のよさや個性について考え、受容し、自らの職業適性を理解することで、将来に向けて自分をよりよく生かしていく方法を考える。

## 3 本時の評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題や人間としての生き方や学ぶこと、働くことなどに関心をもち、自己のよさを伸ばしながら、自主的、自律的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	日常生活における自己の課題を見いだすとともに、自己の将来に希望を抱き、その実現に向け、現在の生活や学習を振り返り、これからの自己の生き方などについて考え、判断し、実践している。	学ぶことと働くことの意義や、自己の能力や適性、進路選択に必要な情報収集や将来設計の仕方などについて理解している。

## 4 本時の指導

過程	学 習 活 動	○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等
導入	(1) 活動のねらいを知る。	○自分に合った職業を見付けていけるようにするために、「自己を知る」活動をすることを伝える。
展開	<p>(2) 自分から見た「よいところ」を考え、「自分発見ワークシート」のハート型の枠内に記入する。</p> <p>(3) 心理検査に取り組み、結果から分かった自分の「よいところ」を、ワークシートのハート型の枠外に記入する。</p> <p>(4) 友達から見た「よいところ」を知る。 ①班で、自分以外の班のメンバーのよいところを、「よいところ一覧表」を参考にしながら付箋に一つずつ書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>知識が豊かである      責任感がある      行動力がある</p> <p style="text-align: center;">付箋紙の記入例</p> </div> <p>②班で互いに付箋を交換し、もらった付箋を自分のワークシートの一番外枠の中に貼る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ワークシート例</p>  </div> <p>(5) 職業適性について考える。 ・これまでの活動を通して分かった自分のよさや特徴などを踏まえて、「職業適性検査」を行い自分の職業適性について理解を深める。</p>	<p>○性格、能力、外見上の特徴など、どのような視点から考えてもよいことを伝える。</p> <p>○心理検査は、自己理解を深め長所を捉えられるものを選択する。</p> <p>○「よいところ一覧表」を活用することで、生徒全員が確実に活動を進め、多面的に友達のよさや個性について考えられるようにする。</p> <p>○付箋を渡すときに、その「よいところ」の理由や具体的なエピソードを伝えるようにすると、よいところの価値が高まることを伝える。</p> <p>■自分の個性を理解できるようにするために、様々な方法で自分のよさや個性について考えられるようにする。 【A 自己評価・自己受容 ※④よさの気付き】</p>
まとめ	<p>(6) 自己発見の活動をする。 ・自分で考えた「よいところ」や友達から教えてもらった「よいところ」を基に、次の点について考え、ワークシートに記述する。</p> <p>①これまでのワークシートの記述を見て、自分のよさや個性について改めて考える。</p> <p>②自分のよさや個性を学校生活や将来にどのように生かしていくか考える。</p>	<p>☆自分のよさや個性について考えたり、自らの職業適性を理解したりして、将来に向けて自分をよりよく生かす方法を考えることができたか。</p> <p>■自分のよさや個性について考えたり、自らの職業適性を理解したりすることで、将来に向けて自分をよりよく生かしていく方法を考えることができるようにする。 【C 自己主張・自己決定 ③可能性の認知】</p> <p>○代表的な記述を教師が紹介し、振り返ったことを共有できるようにする。</p> <p>○教師は、ワークシートの記述から生徒の思いや願いを理解し、今後の授業づくりや生徒指導に生かすことで、生徒の自尊感情を高められるようにする。</p>

※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照

## 自分発見ワークシート

1年\_\_\_\_組\_\_\_\_番 氏名\_\_\_\_\_

### 自分再発見!

③友達から見た「よいところ」

友達に自分のよいところを付箋紙に書いてもらい、一番大きな枠内に貼る。

知識が豊か

責任感がある

行動力がある

知的

②自分から見た「よいところ」(心理検査の結果)

①自分から見た「よいところ」

優しい

温かい

心理検査に取り組み、結果から分かった自分の「よいところ」をハート型の枠外に記入する。

自分から見た「よいところ」を考え、ハート型の枠内に記入する。

活動を振り返り、自分のよさをどのように生かしていくのかを考えさせる。

### 自分再発見!

(1) 左の図の①～③をみて、あなたが考える自分のよさや個性は何ですか。自分の「よいところ」を書いてみましょう。

(2) 職業適性検査から、どのような職業が向いていると分かりましたか。また、そのことについてどう思いますか。

(3) (1)で考えた自分のよさや個性を、学校生活や将来にどのように生かしていきたいと思いませんか。

(4) 今回の活動で気付いたことや感想など

様々な長所を表す言葉を提示し、友達のよいところを考える際の補助とする。

## よいところ一覧表

★友達のよいところを見つけよう。

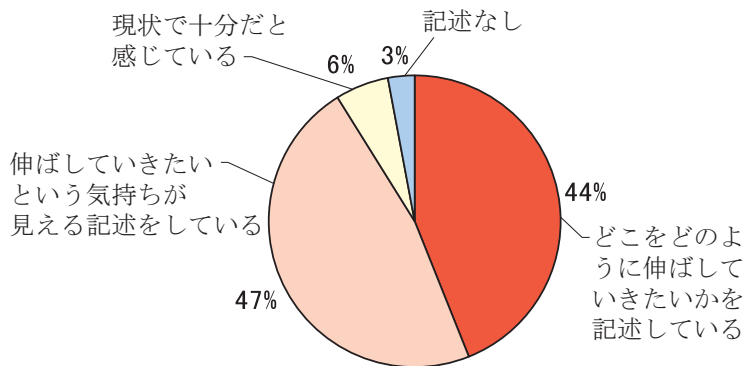
何でもできそう	活発な	落ち着いている
知的	ユーモアのある	鍛えられた
信頼できる	温かい	親切
我慢強い	明るい	優しい
意志の強い	好奇心旺盛	公平
頼りになる	穏やか	正直

## 6 学習の効果

### (1) 生徒全体の変容

【ワークシートの記述から】

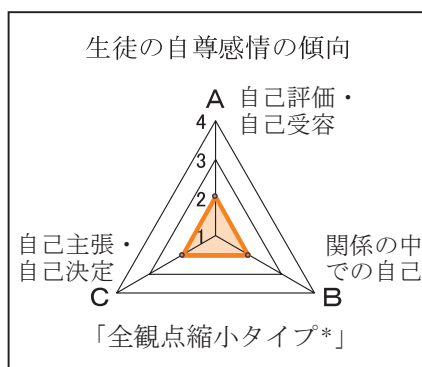
〈質問〉自分のよさや個性を、学校生活や将来にどのように活かしていきたいと思いますか。



#### 〈考察〉

約4割の生徒が、長所をどのようにして伸ばしていきたいかを具体的に見付けられていた。また、具体的に記述できなかった生徒も、将来に向けて自分をよりよくしていこうという気持ちが見られた。生徒は、グループ活動を通して、友達から自分のよいところを見付けてもらったことに、喜びや嬉しさを感じていた。

### (2) 個別の生徒の変容



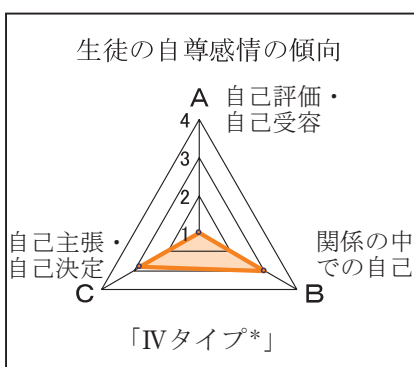
#### 〈学習後の生徒の感想〉

学校生活では、まじめなところやおとなしいところを活かして授業に集中して成績を上げたいです。



#### 〈考察〉

活動を通してより多くの自分のよさに気付くことができた。また、そのよさを学習に活かしていこうと考えることができた。



#### 〈学習後の生徒の感想〉

もっとよいところを増やしたいと思うので、やったことのないことに挑戦したいと思います。



#### 〈考察〉

友達から伝えてもらった「自分のよさ」については、自分が考える「自分のよさ」との間に差異があり、受容するまでには至らなかった。しかし、活動を通して、自分のよいところを増やしていくために、新しいことに挑戦したいという前向きな気持ちをもつことができた。

\*タイプについては、指導資料【基礎編】13～15ページを参照

## (6) 成就感や連帯感を味わえる学習を通して高める 【特に重点とする観点 「A 自己評価・自己受容」「B 関係の中での自己」】

### 「成就感や連帯感を味わえる学習」とは

目標を明確に設定し、友達と協力して取り組むことで、目標が達成できるようにする学習です。主に、観点「A 自己評価・自己受容」、観点「B 関係の中での自己」の内容に当たります。

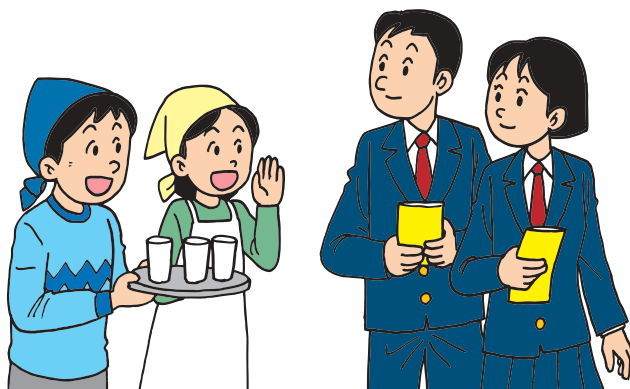
#### 各教科等における「成就感や連帯感を味わえる学習」の例

##### <教科等> 特別活動

運動会、合唱祭、学習発表会等に向けて、日頃の学習活動の成果を発展させ、友達と協力しながら創造的に取り組めるようにします。

##### <教科等> 特別活動

係活動や児童（生徒）会活動を通して、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるようにします。



#### 実践事例6 高等学校 全学年 特別活動（学校行事／文化祭）

##### <本実践の概要>

生徒の活動を充実させていくために教師が適切な支援をしながら、文化祭に向けて学校全体で取り組んでいきます。

##### <内容の取扱い>

##### ○主体的な活動につながる教師の働き掛け

- ・全員の生徒が役割をもち、目標をもって主体的に取り組めるように、教師から助言し、生徒に企画書を作成させたり取組カードを活用したりすることで、役割の明確化や活動への共通理解が図れるようにします。

##### ○生徒の活動を価値付ける教師の働き掛け

- ・取組全体を通して、教師が一人一人の生徒を「見守る」「褒める」「認める」「価値付ける」ことを心掛けながら言葉掛けをします。
- ・振り返りカードを活用することで生徒が活動を自己評価できるようにします。

1 題材名 「文化祭」

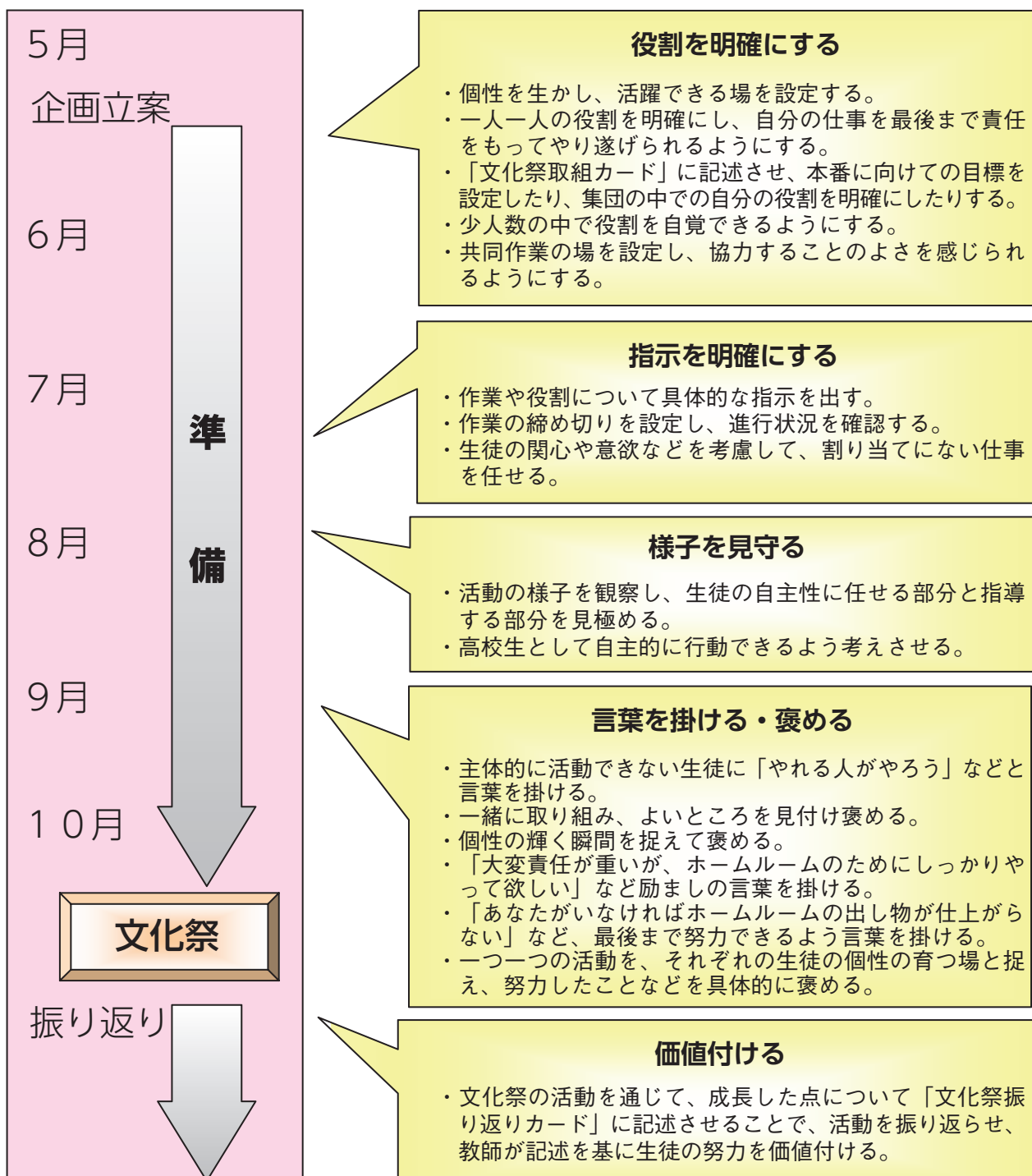
2 題材の目標

平素の学習活動の成果を生かし、目的に向かい協力してやり遂げることにより、個性を伸ばし、自主性、創造性を高めるとともに、成就感や連帯感を味わい、責任感と協力の態度を養う。

3 題材の評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
文化や芸術、平素の学習活動などに関心をもち、互いの努力を認め合い、自己を伸ばそうとする意欲をもって、自主的、自律的に文化的行事に取り組もうとしている。	学校や学年の一員としての自覚をもち、美しいものや優れたもの、自他のよさや自己の成長などについて考え、判断し、協同して実践している。	文化的行事の意義や、活動の仕方、発表や鑑賞の仕方などについて理解している。

4 活動の流れ



## 5 資料

本番に向けて目標を設定したり、集団の中での自分の役割を明確にしたりします。

本番後に自己評価を行い、取組に対する成果を確かめられるようにします。

### 文化祭取組カード

文化祭に向けて

年 組 番 名前

---

文化祭まであとわずかとなりました。A校の力を結集した最高の文化祭になるよう、一人一人の力を発揮できるように頑張きましょう。

◎文化祭に向けてのあなたの取組や、今の気持ちなどを書きましょう。

① あなたは、ホームルームや部活動の出し物で、何の仕事を担当していますか。

② ホームルームや部活動の出し物が成功するように、あなたが頑張ろうと思っていることは何ですか。

③ 本番でどうなれば、ホームルームや部活動の出し物が成功したと言えると思いますか。

④ 文化祭に向けて不安に思っていることはありますか。あれば書きましょう。

### 文化祭振り返りカード

文化祭を終えて

年 組 番 名前

---

文化祭を終えての、あなたの今の気持ちを書きましょう。次の質問に対して、自分の気持ちに一番近いところに○を付けましょう。

質 問	とても 思う	そう 思う	思わ ない	あま り思 わな い	思わ ない
自分たちが取り組んだホームルームや部活動の出し物は成功した。					
出し物の準備や本番の取組で、自分の力を出すことができた。					
出し物の準備や本番の取組で、先生や友達のアドバイスが役に立った。					
出し物の準備や本番の取組で、友達と協力して進めることができた。					
ホームルームや部活動の出し物で、来場者に喜んでもらうことができた。					
自分の仕事に最後まで取り組むことができた。					
文化祭を通して、成長することができた。					

① 出し物の準備や本番の活動の中で心に残っていることは何ですか。楽しかったことや苦労したことなど、書きましょう。

② 出し物の準備や本番の活動の中で、自分が頑張ったな、成長したなど思うことは何ですか。

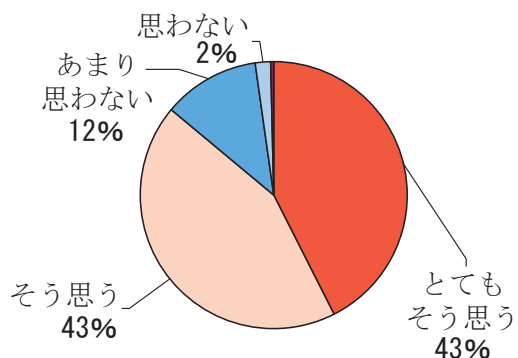
③ 今回の文化祭の経験をこれからの学校生活や将来にどのように生かしていきますか。

## 6 学習の効果

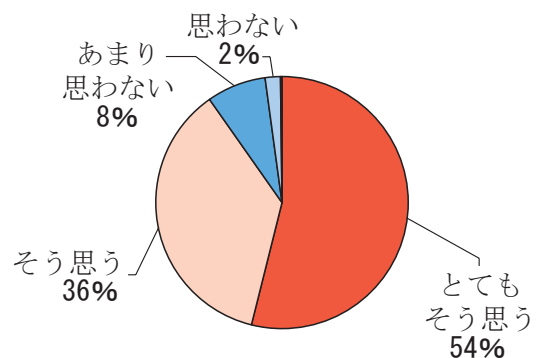
### (1) 生徒全体の変容

#### 【取組後の自己評価から】

〈質問1〉自分たちが取り組んだ、ホームルームや部活動の出し物は成功した。



〈質問2〉出し物の準備や本番の取組で、自分の力を出すことができた。

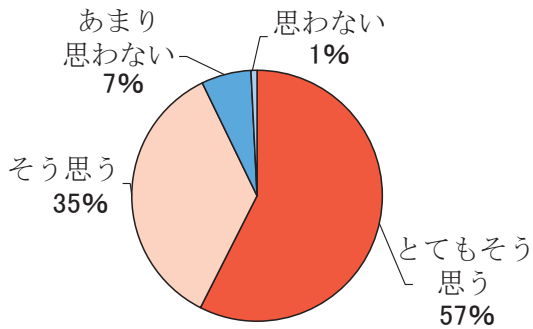


#### 〈考察〉

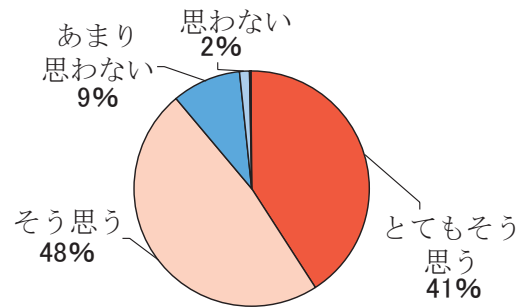
「文化祭振り返りカード」の質問に対し、8割以上の生徒が「自分たちの出し物が成功した」、また、9割以上の生徒が「自分の力を出すことができた」と回答しており、主体的な活動を通して成就感を味わうことができたと考えられる。本番前に「文化祭取組カード」を利用して、生徒一人一人の役割や目標を明確にしたことや、教師の適切な働き掛けに効果があったと考えられる。



〈質問3〉出し物の準備や本番の取組で、友達と協力して進めることができました。



〈質問4〉出し物の準備や本番の取組で、先生や友達のアドバイスが役に立った。

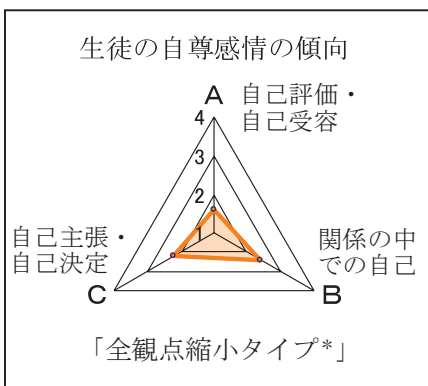


〈考察〉

9割以上の生徒が「友達と協力して取り組めた」と回答しており、連帯感を味わうことができたと考えられる。また、「教師や友達のアドバイスが役に立った」と9割近くの生徒が回答しているように、教師や友達の適切な助言や働き掛けが有効であったことが分かる。記述内容には出し物が成功するには友達と協力することが大切であることや、ホームルームが一つにまとまっていく喜びについて触れているものが多く見られた。



(2) 個別の生徒の変容



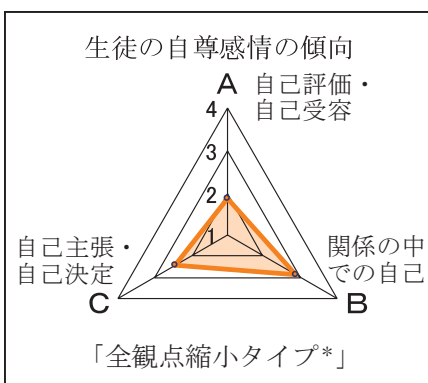
〈取組後の生徒の感想〉

ダンス部の発表の練習は大変で、つらかったけど、本番は成功して、とても楽しかったです。ダンスが上手くなった。文化祭を通して、自信をもつことができました。授業中など、発言などをする自信につながると思います。



〈考察〉

自分に自信をもてなかった生徒が、練習と本番での成功体験を通して成就感を味わうとともに、大きな自信を得ることができた。



〈学習後の生徒の感想〉

ケガで文化祭に出られない友達もいたので、自分ができることを全力で頑張った。自分が成長したなと思ったのは、人の意見に従っているばかりではなくて、自分から意見を出したり、友達の考えていることが1学期に比べて分かるようになったりした。



〈考察〉

自分のできることを全力で取り組む中で、友達への理解を深めたり、よりよい関わり方を学んだりすることができている。連帯感を味わうとともに、自分の成長を感じることができた。

\*タイプについては、指導資料【基礎編】13～15ページを参照

## (7) 他者と協力することの大切さを学ぶ学習を通して高める 【特に重点とする観点 「B 関係の中での自己」】

### 「他者と協力することの大切さを学ぶ学習」とは

自分の役割に気付き、班や学級などの集団のことを考え、工夫して活動できたことを認め合うことにより自尊感情や自己肯定感を高めていきます。主に観点「B 関係の中での自己」の内容に当たります。

#### 各教科等における「他者と協力することの大切さを学ぶ学習」の例

##### <教科等> 特別活動

学校行事、係活動や当番活動、児童（生徒）会活動を通して、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるようにします。

##### <教科等> 音楽 図画工作 美術

合唱や合奏、共同で行う創造活動等を通して、互いの個性を生かし合い協力する喜びを味わわせるようにします。

##### <教科等> 体育 保健体育

チームで作戦を立てたり、助言し合ったりしながら、様々な運動に取り組み、協力、公正などの態度を育てます。

### 実践事例7 特別支援学校 高等部第1学年 職業

#### <本実践の概要>

集団の中で役割を果たすことによって、価値ある自分に気付き、働く自分に誇りを感じられる活動を行います。

#### <内容の取扱い>

##### ○自己の役割を意識できる指導

- ・一人で活動する場合でも達成可能な活動内容を設定します。
- ・同じ活動を繰り返すことで、効率よく活動に取り組むためのポイントを自分で振り返ることができるようにします。

##### ○他者との協力によって達成感を味わえる指導

- ・一人一人が協力し合うことで、より効率よく課題を達成できる活動を設定します。
- ・現場実習等につながるゲーム的な要素を取り入れた活動により、他者を意識したり、協力したりする方法を身に付け、達成できた喜びを実感できるようにします。

#### 1 単元名

「数字カードをすばやく並べよう」

班対抗で数字カード並べ（1～200）を行う。

#### 2 本時の目標

- ・班の一員として、自分の役割を意識し、協力して行動する。
- ・互いを知り、支え合いながら行動する。
- ・効率性を考えて行動する。

### 3 本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・表現	技能	知識・理解
意欲的に取り組み、班に貢献する態度をもって活動する。	班でどのように並べたら早く並べられるか、自分なりに考える。	数字並べの協同作業で、班内で分担した通りに、自分の役割を果たす。	結果から、全員が協力すると早く並べられることを理解する。

### 4 本時の指導

過程	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等
導入	(1) 本時の学習内容を確認する。 数字カード並べのルールと方法を知る。	○グループ編成は、生徒の案を生かして決める。 ■全員が協力して効率よく課題を達成するため、一人の取組ではないことやみんなで相談して協力することの大切さを伝える。 【B 関係の中での自己 ※③貢献意欲】
展開	(2) 数字カード並べを行う。(1回目) ・1～200までの数字カードを、班で協力して順に並べる。  (3) 教師から助言を受ける。 ・各班の生徒の動きを図で確認しながら助言を聞く。  (4) 数字カード並べを行う。(2回目) ・助言を生かして、再度、数字カードを並べる。	○参加を促すために「ここに並べたら？」など、生徒に合わせた言葉を掛ける。  ○「一人一人がそれぞれで活動している」、「特定の人が指示を出している」等の課題を指摘し、班全員が協力できるために、言葉を掛け合う等の具体的な助言をする。  ☆2回目では、1回目よりも協力し、一人一人が役割を果たそうとする姿が見られたかを評価する。
まとめ	(5) 活動を振り返る。	○班内の協力により、2回目の課題をより早く達成できたことを評価する。 ■本時の活動を振り返り、一人一人が役割を果たすことの重要性や班全員が言葉を掛け合い協力することの重要性を実感させる。 【B 関係の中での自己 ③貢献意欲】

※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照

### 5 学習の効果

#### 〈授業者のコメント〉

1回目の活動で個々の生徒は自分の思いが優先し、班の他者と協力することには気付かずにいました。

1回目の活動後に、他者と協力するための助言を受けて2回目の活動では、1回目よりも一人一人が協力し合うことに意識を向け、それぞれの役割を果たそうとする姿が見られました。

その結果、全ての班が1回目よりも早く数字カードを並べられ、協力したことによる達成感を味わうことができました。



#### 〈学習時の生徒の言葉〉

1回目「自分一人でやってみよう。」  
2回目「みんなで協力すると前より早くできた。」  
「みんなでやりとげてうれしい。」



#### 〈考察〉

一人一人が協力することで結果の出やすい活動を設定し、生徒に班の状況を伝え、他者の役割に気付くように助言を行った。

これらのことにより、生徒の表情等から、生徒が協力することの大切さを実感し、目標達成に貢献できたことの喜びを全員で共有していることが把握でき、一人一人の自己肯定感が高まったと考えられる。

## 2 指導方法を工夫することで自尊感情や自己肯定感を高める実践事例

### (8) 友達と関わりながら学ぶ学習形態や学習方法の工夫 【特に重点とする観点 「B 関係の中での自己」】

#### 「友達と関わりながら学ぶ」とは

「自分が周りの人の役に立っている」「周りの人は大切な存在だ」ということに気付かせ、主に観点「B 関係の中での自己」を高めていく方法です。本実践では、友達と関わりながら学ぶことができるよう「学習形態」や「学習方法」の工夫に視点を当てました。

#### 友達と関わりながら学ぶ「学習形態」や「学習方法」の工夫例

##### 学習形態

- 一斉学習  
集団で思考し、多様な人の考えを交流することができます。
- 班学習・ペア学習  
話しやすい雰囲気をつくり意見交流を活発にし、考えを広げたり深めたりできます。

##### 学習方法

- ディベート  
設定したテーマについて一定の規則に従って行う討議で、活発な意見交流が期待できます。
- ポスターセッション  
発表者と聴衆に分かれて、調べたことを伝えたり質疑をしたりして、意見交換をすることができます。

### 実践事例8 高等学校 第2学年 総合的な学習の時間

#### <本実践の概要>

4人班でのワークショップ形式の活動を基本とし、KJ法的な手法などを使って、自由な発想で考えを出したり、友達の考えを理解したりできるようにしていきます。

#### 1 単元名(教材名)

「日本を救え！震災復興計画 ～今私たちにできること～」  
本単元は公民科の科目「現代社会」で扱う「私たちの生きる社会」の学習から発展させた単元である。「現代社会における諸問題」等の学習を踏まえ、課題に対する望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。



#### 2 本時の目標

- ・震災復興をテーマに、様々な観点から課題を追究し、友達の考えに触れながら多面的・多角的に解決策を考えるとともに、今の自分ができることを明らかにする。

#### 3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
東日本大震災後の諸問題に対して、その解決策を考えるとともに、今の自分ができることを考えようとしている。	KJ法的な手法を用いて、友達の様々な考えに触れながら、多面的・多角的に解決策を考えるとともに、今の自分ができることについて考え表現している。	諸資料を様々なメディアを通して収集し、課題解決に役立つ情報を主体的に選択して活用している。	東日本大震災後の諸問題を理解している。

#### 4 単元の指導計画（全6時間）

時	学習活動
1・2	東日本大震災後の諸問題について理解する。
3・4	東日本大震災後の諸問題について、自己の課題をもち、諸資料を様々なメディアを通して収集し、課題に対する自分の考えをもつ。
5・6 本時	震災復興テーマに、様々な観点から課題を追究し、友達の考えに触れながら多面的・多角的に解決策を考えるとともに、今の自分ができることを明らかにする。

#### 5 本時の指導

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ☆評価（ ）評価規準 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等
導入	(1) ワークショップの手法を使い、震災復興計画を立てる学習をすることを教える。 (2) ワークショップの意義や進め方について学ぶ。	○「私たちの震災復興計画」をテーマに、具体的に次のような課題について考える。 ・被害16兆9000億円（内閣府発表）と言われる復興費用をどうやって集めるか。 ・放射性物質で汚染された地域をどうするか など
展開	(3) 班で自由に意見を出し合い、KJ法的な手法を使ってグループで話し合う。 ①テーマに沿って自分の考えを付箋紙に書く。 ②自分や友達の考えを比較し、似た考えをまとまりにしてグループ化する。（KJ法的な手法） ③グループ化されたそれぞれの考えに対する課題を書き、模造紙に貼る。 ④課題に対する解決策を付箋紙に書き模造紙に貼る。 ⑤解決策をグループ化する。 (4) 班で話し合ったことを発表する。	○ワークショップのルールとして他人の意見を批判しないことを徹底する。できる限りたくさんアイデアを出させる。  ■参加者全員に平等に意見を主張する機会が与えられ、一人一人の意見が尊重されながら建設的な意見交換ができるワークショップを通して課題を解決できるようにする。 【B 関係の中での自己 ※①他者理解 ④支えの気付き】
まとめ	(5) ワークショップを実施する中で、気付いたことを振り返りシートに書く。また、計画を実施するに当たって、「今の自分ができること」をワークシートに記入する。	○終末に今日の学習を振り返り、学習の成果を確かめられるようにする。 ☆多面的・多角的に解決策を考えるとともに、今の自分ができることについて表現することができたか。（思・判・表）

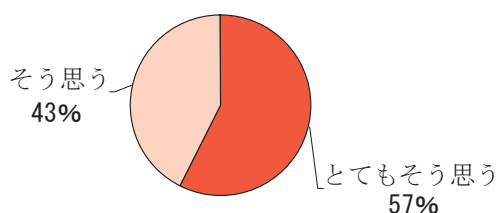
※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照

#### 6 学習の効果

##### (1) 生徒全体の変容

【学習後の自己評価から】

〈質問〉友達と話し合うことによさを感じることができた。

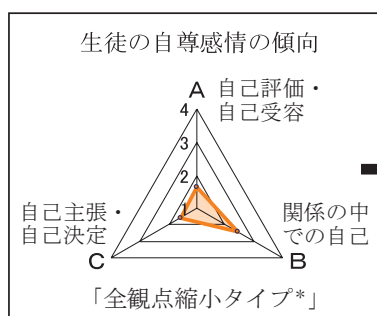


##### 〈考察〉

質問に対し、全員が肯定的な回答をしている。

「課題は難しかったが友達のいろいろな意見が聞けて勉強になった」「自分たちで案を出し合うことで、これまでに考えてもいなかったことを思い付いた」などという記述があり、ワークショップを取り入れた話し合いの工夫の効果があったと考えられる。

##### (2) 個別の生徒の変容から



##### 〈取組後の生徒の感想〉

自分に何ができるかなどをまじめに考えられました。ワークショップを通して、友達のいろいろな考えがあると知り、おもしろいと思いました。

##### 〈考察〉

全観点が低い傾向にある生徒であるが、意欲的に学習に取り組むとともに、友達と話し合うよさや、学習の成果を実感することができた。



\*タイプについては、指導資料【基礎編】13～15ページを参照

## (9) 主体的に取り組める教材・教具の工夫 【特に重点とする観点 「A 自己評価・自己受容」】

### 「主体的に取り組める」とは

「できた、分かった」という充実感や達成感を味わえるようにし、主に観点「A 自己評価・自己受容」を高めていく方法です。本実践では、主体的に学習に取り組めるよう「教材・教具」の工夫に視点を当てました。

#### 主体的に取り組める「教材・教具」の工夫例

##### ○関心・意欲を高める

子供の生活に関わりの深い教材・教具や見て理解できる教材・教具を活用することで、学習への関心・意欲を高めます。

##### ○理解を助ける

具体的に操作ができるものや見て理解できる教材・教具、ワークシートなどの教材・教具を活用することで、学習の理解を助けます。

##### ○コミュニケーションを活発にする

黒板や電子情報ボード、ワークシートや付箋紙などの教材・教具を活用し、子供同士の情報交換や意見交換などのコミュニケーションを活発にします。

##### ○学習の成果を確かめる

取組カードや振り返りカードなどの教材・教具を活用し、毎時間もしくは単元の学習を通して成果を確かめられるようにします。

### 実践事例9 特別支援学校 小学部低学年 図画工作

#### <本実践の概要>

素材の感触を味わうことを楽しみながら、児童が自ら作りたい作品を選ぶことができるようにします。分かりやすい道具の工夫で意欲が高まるようにし、完成した作品に意味付けを行うことで作り上げた達成感を味わい、自己肯定感を感じられるようにします。

#### 1 題材名(教材名)

「はらぺこあおむしが土曜日に食べた食べ物を作ろう」  
関連資料「はらぺこあおむし」エリック・カール作 偕成社

#### 2 題材の目標

- ・ 道具や手などを使い、紙粘土にたくさん関わることができる。
- ・ 素材を変化させる喜びを味わう。
- ・ イメージをもって、自分の作りたい食べ物を作って楽しむ。
- ・ 手順表や色付き容器を手掛かりにして作り方を理解し、一人で作品を作る。




#### 3 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自ら粘土に触ってみようとする。 作りたい作品を自分で選んで作ろうとする。	材料などを基に、作りたい作品を選択したり、色や形を考えたりしている。	手などの感覚を働かせながら材料や用具を使い、イメージをもって表している。	完成した作品の形や色などから、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。

#### 4 題材の指導計画（全4時間）

時	学習活動
1	「スイカ」か「ソーセージ」のどちらかを選択し、紙粘土で材料を作る。 材料を組み合わせるなどして作品を作る。
2	「ペロペロキャンディ」か「カップケーキ」のどちらかを選択し、紙粘土で材料を作る。 材料を組み合わせるなどして作品を作る。
3	「チョコレートケーキ」か「さくらんぼパイ」のどちらかを選択し、紙粘土で材料を作る。 材料を組み合わせるなどして作品を作る。
4 (本時)	これまで作った全6種類の中から作りたいものを選択し、紙粘土で材料を作る。 材料を組み合わせるなどして作品を作る。

#### 5 本時の展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等
導入	(1) 本時の学習内容を知る。 ・「図工の歌」を歌う。 ・前時までの活動を振り返る。 ・本時の学習である、紙粘土に絵の具を混ぜるなどの活動の説明を聞く。	○大型絵本を見せて、一人一人がこれまで作ってきた作品との関連付けができるようにする。 ○これまで作った6種類の作品を示して、選択できるようにし、作成への意欲をもたせる。
展開	(2) 自分の作りたい作品を選択する。  (3) 選択した作品の材料を作る。 ・「スイカ」「ペロペロキャンディ」「さくらんぼパイ」など6種類から一つを選んで、選択した作品の材料を作る。  (4) 自分で選択した作品を作る。  <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>スイカ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ペロペロキャンディー</p> </div> </div> <div style="text-align: center;">  <p>さくらんぼパイ</p> </div>	○一人一人、何を作りたいか、6種類の見本を見て選択できるようにする。 ○紙粘土を直接触れることに抵抗のある児童には、へらを使用できるようにする。 ■児童が、自分一人で取り組むことができるように次のような教材・教具を用意し、主体的に取り組むことができるようにする。 【A 自己評価・自己受容 ※①成果の発揮】 ○視覚的に見て理解できる教具と作成手順表を用意する。 ○「スイカ」は、赤色と緑色の粘土をどのように組み合わせたらよいか分かる専用の容器を用意する。 ○「ペロペロキャンディ」は、黄色と水色のそれぞれの粘土をどのように組み合わせたらよいか分かる台紙を用意する。 ○「さくらんぼパイ」は、黄土色と黄色の粘土をどのように組み合わせたらよいか分かる専用の容器を用意する。 ■一人でできるようになった活動については、本人に気付かせて、できたことを褒める。 【A 自己評価・自己受容 ③努力の評価】
まとめ	(5) 作った作品を見合い、感想を伝え合う。	☆手順表や色付き容器を手掛かりにして、作り方を理解し、素材に関わりながら作品作りを楽しむことができたか。

※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照

#### 6 学習の効果

##### 〈授業者のコメント〉

直接、紙粘土に触れることができなかつた児童が、達成感をもてるように教材・教具を工夫することにより、「これなら自分でできる」という自信や活動への意欲をもてるようになった。

回数を重ねる度に、児童は、「次は、これを作りたい」「作った作品をみんなにみせたい」などの意欲が見られるようになった。

この変化を見ていた他の友達は、自分もやってみようというやる気が出て、よい影響を与えることにもつながった。



##### 〈学習時の児童の言葉〉

「紙粘土に直接触れずに、へらなどを使うと自分でもできる。」

「(誇らしげに) 次は、『ペロペロキャンディ』を作りたい。」

「自分が作った作品をみんなに見てもらいたい。」



##### 〈考察〉

紙粘土に直接触れることができないなど、子供にとって苦手な活動がある場合には、一人一人のもてる力が発揮できる場を設定した。このことで、自分のよさを実感し、自分を肯定的に認めることができるようになったと考えられる。

## (10) 学習の成果を自ら実感できる評価の工夫 【特に重点とする観点 「A 自己評価・自己受容」】

### 「学習の成果を自ら実感できる」とは

自分の成長や努力してきたことに自ら気付くようにし、主に観点「A 自己評価・自己受容」を高めていく方法です。本実践では、学習の成果を実感できるよう「評価」の工夫に視点を当てました。

#### 学習の成果を実感できる「評価」の工夫例

##### ○机間指導で子供と対話

机間指導を通して子供と対話をしながら、学習状況を把握し、できたことを賞賛したり、つまづきを支援したりします。

##### ○ノートやワークシートで学習状況を把握

ノートやワークシートから、授業中には発言できなかった子供の考え方や発想などを把握し、評価します。

##### ○学習カードで自己評価

子供自身が、学習カードなどを使って、学習の経過や学習の達成状況を振り返り、次の目標をもてるようにします。

##### ○面接で理解の促進

授業中にねらいが達成できなかった子供に対して、次の授業までに面接し、理解を促します。

##### ○観察で学習過程を把握

学習結果だけでなく、授業中の子供を観察し、学習過程も重視します。

##### ○作品やレポートで把握

作品やレポート等で、子供一人一人のよさや可能性を把握し、評価します。

### 実践事例 10 特別支援学校 高等部第2学年 国語

#### <本実践の概要>

生徒が自分の考えや感じたことを文字に表現したり発表したりする活動を行います。その活動に対して、否定的な言葉掛けをせず、まずはどのような考えでも受け止めてから評価をするようにします。また、様々な考え方に触れて、他者の存在を肯定的に捉えられるよう働き掛けを行います。

#### 1 単元名（教材名）

「考えたこと、感じたことを表現しよう」

#### 2 本時の目標

- ・自分の考えや感じたことを文字に表現することができる。
- ・自分の考えや感じたことを友達の前で発表できる。
- ・相手には様々な考え方や感じ方があることを知る。

#### 3 本時の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
意欲的に取り組み、自分の考えや感じたことを積極的に表現し、発表しようとしている。	相手の考えを認めながら、自分の考えたことや感じたことを友達と伝え合っている。	四字熟語の読みや意味を理解している。



## 4 本時の展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等
導入	(1) 本時の学習内容を確認する。	○本時の学習を説明し、見通しがもてるようにする。
展開	(2) 四字熟語の読みと意味をワークシートに書く。 (3) 発表し合うとともに、正答を知る。 (4) 提示された新聞の記事から、感じたことや考えたことをワークシートに記入する。 ①写真を見て気付いたことをワークシートに記入する。 ②ワークシートに記入したことを伝え合う。 ③記事を音読する。 ④記事にどんなことが書かれているかワークシートに沿って考える。 ⑤考えたことを伝え合う。 ⑥記事を読んで考えたこと、感じたことをワークシートに記入する。 ⑦考えたこと、感じたことを伝え合う。	○漢字や読み方などを自分で考えて記入するよう言葉掛けをする。 ○正答を視覚的に確認できるよう、ワークシートと同じ順序で四字熟語を板書する。 ○生徒が発表した四字熟語を板書して、確認できるようにする。 ■机間指導で生徒の記述を把握し、自信をもって発表できるよう支援する。正答でなくても「そのように考えたのですね」などと一度受け止め、その上で、正答を提示する。 【A 自己評価・自己受容 ※①成果の発揮】 ○生徒の伝え合いを通して「そういう考えもあるよね」「○○さんはそう感じたんだね」などと互いの考えを認め合う。 ■友達の考えを聞き、同じ考えかそうでないかを確認できるよう言葉を掛け、どのような考えであっても生徒の発言を一度受け止め、友達の考えを聞くように助言することで、様々な考えを認められるようにする。 【A 自己評価・自己受容 ②相互理解】
まとめ	(5) 本時のまとめをする。	☆相手の考えを認めながら、自分の考えたことや感じたことを友達と伝え合うことができたか。

※表中の○数字は自尊感情の3つの観点の小観点を示しています。88～89ページ「自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点」参照

## 5 学習の効果

### 〈授業者のコメント〉

授業に参加することが難しい生徒が、少しずつ集団での授業に参加できるようになってきた。

本時では、授業中に辞書で調べ際に立ち歩く姿があったが、教師は授業に参加している意欲を評価した。また、分からないことを辞書で調べた行動を他の生徒が肯定的に認める雰囲気づくりを工夫した。

また、日常の肯定的な関わりの積み重ねにより、間違いを指摘されても、落ち着いて対応できるなど「認めてもらえた」という生徒の安心感につながった。



### 〈考察〉

担任だけでなく担任以外の教員が、肯定的な関わりを日常的に積み重ねることにより、生徒は安心感をもつようになった。その結果、授業における学習活動の評価について、本人は自分の存在が認められたという気持ちにつながるようになった。このことは、他の授業への参加へつながり、評価され、認められることが増えることで、学習の成果をより多くの場面で実感できるようになった。

## (11) 地域と関わりながら学びを深める体験活動の工夫 【特に重点とする観点 「A 自己評価・自己受容」、「C 自己主張・自己決定」】

### 「地域と関わりながら学ぶ」とは

達成感や充実感を味わえる豊かな学習活動を展開したり、人間関係や経験を広げて自分のよさや可能性に気付けるようにしたりし、主に観点「A 自己評価・自己受容」「C 自己主張・自己決定」を高めていく方法です。本実践では、地域と関わりながら学べるよう「体験活動」の工夫に視点を当てました。

#### 地域と関わりながら学びを深める「体験活動」の工夫例

##### ○地域の高齢者と昔遊びで交流

地域の高齢者と、昔遊びの交流会をします。お手玉や竹馬、折り紙など、昔遊びの名人とともに活動したり、百人一首大会に地域の名人を招いたりします。教師は、少人数で高齢者と対話できるよう工夫をし、子供が高齢者から何を学べたかについても気付かせます。

##### ○地域清掃活動

地域の美化活動に取り組みます。児童・生徒会活動やボランティア活動としても取り組みます。地域の町内会や区市町村の環境課等と連携して、どこを清掃するとよいかを聞いたり、一緒に活動をしたりすることも効果的です。活動後は、教師は、地域がきれいになって地域の役に立てたことを評価します。地域の声を児童・生徒に伝えることも大切です。

##### ○幼児に読み聞かせ

地域の幼稚園や保育園に出向き、絵本の読み聞かせをします。少人数で、幼児と対話しながら活動することも効果的です。活動後は、教師は、幼児の反応や喜んでいる様子や感想を児童・生徒に伝えるようにします。

##### ○小・中学校で補習教室の補助

近隣の小・中学校の補習教室の補助をします。都立高等学校の教科「奉仕」の活動としても取り組みます。算数の計算や、英単語の綴りなどを教えることを通して、充実感を得るとともに自らも学ぶ意欲を高めます。

##### ○学校行事での異年齢交流

地域の幼児や児童を運動会などの学校行事に招きます。異年齢の幼児・児童と交流し、下級生などをお世話するなどの体験から、児童・生徒に充実感や達成感を得られるようにします。

##### ○卒業生から上級学校について聞く

進路学習の一環として、卒業生から上級学校について話を聞く機会を設定します。児童・生徒が話を聞くだけでなく、自分の生き方について考え、その実現のために自分の得意なことやよさを見つめられるようにします。

##### ○地域の児童館で人形作りをします。

地域の子供たちが遊ぶためのおもちゃや人形を作ります。児童館に出向き、幼児や児童と一緒に遊ぶ機会を設定するのも効果的です。



## 実践事例 11-① 中学校 第2学年 総合的な学習の時間（職場体験）

### <本実践の概要>

本実践では、受け入れ先の事業所等には、事前に自尊感情や自己肯定感を高める生徒への言葉掛けや関わり方について説明をし、協力を依頼します。また、家庭には、生徒が頑張っており取り組んだことについて褒めたり励ましたりして意欲的に活動に取り組めるよう言葉掛けをするなど、学校・学年便り等で協力を依頼します。

### 1 事業所・保護者向けの便り「職場体験活動についてのお願い」の配布

職場体験協力事業所の皆様

平成 23 年〇月〇日  
〇〇立〇〇中学校長

#### 職場体験についてのお願い

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
このたび、事業所の皆様には、本校生徒を受け入れてくださりありがとうございます。ご迷惑を多々おかけすることがあるかと思いますが、よろしく願いいたします。  
さて、本校では「すすんで自分のよさを発見し、自分をかけがえのない存在だと思い、自信をもって行動する子供」を育てるために、様々な取組を行っています。  
このたびの職場体験活動においても、生徒の自尊感情や自己肯定感を高めるための取組として行ってまいりますので、ご協力をお願いいたします。

#### 自尊感情や自己肯定感とは・・・

「自分のよさを肯定的に認め、他者との関わり合いを通して、自分をかけがえのない存在、価値ある存在として捉える気持ち」です。

～自尊感情や自己肯定感を高めていくと、このような子供に育ちます。～



学習意欲が高い



友人関係が良好



進路の目標が明確

自尊感情や自己肯定感について説明し、地域の方々と共通理解を図ります。

生徒の自尊感情や自己肯定感を高める具体的な関わり方や声掛けの例を紹介しします。

#### 声掛け・関わり方の例

- 認める、褒める  
「あなたがこの仕事をやり遂げてくれて助かった。いつもより早く終わったよ。」
- よさを見付ける  
「あなたはハキハキと大きな声で挨拶ができるね。それは社会人としても大事なことだよ。」
- 可能性を広げる、将来について話す  
「私があなたたちくらいの頃は、こんな仕事をしたいと考えていた。この仕事を始めたきっかけはこんなことだよ。あなたは、どんな仕事をしたいと思っているの。」
- 成果を発揮させる  
練習したことを実際にお客様の前で実践させ、成果を発揮させる、など。
- 関わる  
「まずは『できる』『できない』よりも、一生懸命やるのが大事だよ。一生懸命やった上で、できないことや分からないことがあったら、いつでも相談してくださいね。」

### 2 生徒の自己評価

職場体験活動の後、生徒に自己評価を実施し、生徒自身に職場体験活動を通して学んだことや身に付けたことを振り返らせ、生徒が自分の成長を自覚し、自信をもたせるようにします。

#### 生徒の自己評価の項目例

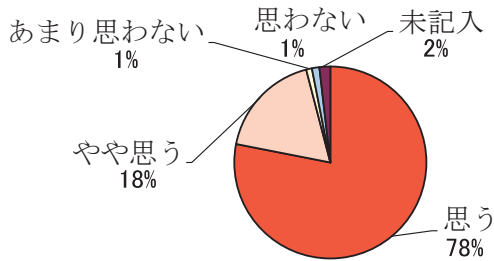
- 職場体験で嬉しかったことや心に残ったことはどんなことですか。
- 自分の将来について考えることができましたか。
- 職場体験について、家族と話ができましたか。
- 職場体験で自信が付いたことはありますか。それは、どんなことですか。

### 3 学習の効果

#### (1) 生徒全体の変容

##### 【学習後の自己評価から】

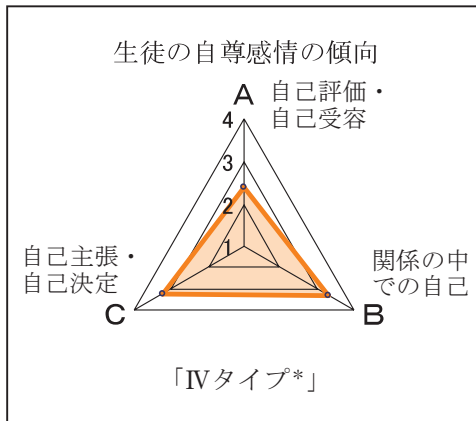
〈質問〉仕事の喜びや楽しさを感じることができた。



##### 〈考察〉

肯定的な回答が96%あり、学習の効果があったことがうかがえる。「仕事が早いね、と言われて嬉しかった」、「自分の補充した商品がたくさん売れた」、「丁寧に仕事を教えていただき、たくさんの仕事を任せてくれてうれしかった」など、仕事の喜びや楽しさを表す記述があった。職場の方々から仕事ぶりを認められて感謝されたことや、自分の取り組んだ仕事の成果が出たことなどにより、生徒は仕事の喜びを感じることができたと考えられる。

#### (2) 個別の生徒の変容



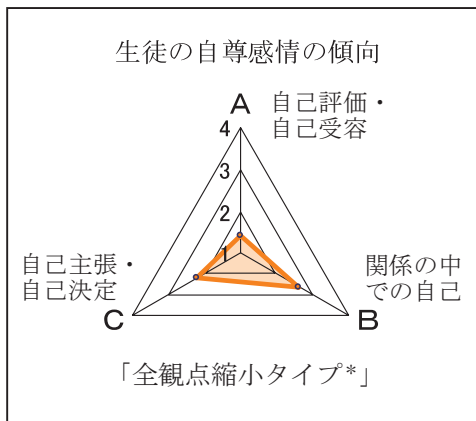
##### 〈学習後の生徒の感想〉

幼児が私のもとにかけてきて、甘えたり遊んだり、みんなと触れ合ったことが心に残りました。少しでも先生や幼児たちの役に立てたことで、私でも役に立てることがあるのだと自信になったし、これから夢に向かっていく自信にもなりました。



##### 〈考察〉

人との関わりを豊かにもてて、自分が周囲の人の役に立つことができた実感したことで、自分に自信をもつことができた。それが将来への希望にもつながった。



##### 〈学習後の生徒の感想〉

この職場体験で嬉しかったことは、分からないことが分かるようになったことや、大変だったことができるようになったことです。自分が苦勞をしてお店の方の大変さがよく分かった。また最初はできなかったことができるようになったことで、自信が付いたと思います。これからも大変だと思えることにチャレンジしたいと思います。



##### 〈考察〉

働くことの大変さを実感しながらも、最初はできなかったことができるようになったことで、自分の成長を認識し、自信が深まった。

\*タイプについては、指導資料【基礎編】13～15ページを参照

## 実践事例 11-② 高等学校 第3学年 商業（マーケティング／販売活動）

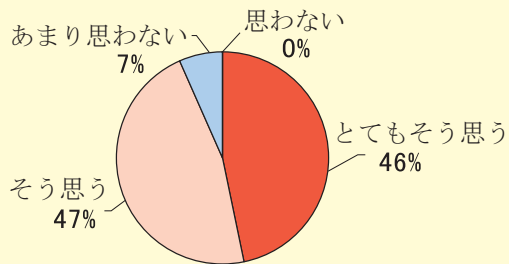
### <本実践の概要>

地域の協力を得て、商店街で、野菜販売やスーパーボールすくい、福引きなどの体験活動を行います。地域の人と直接関わり、実際に販売を体験することで活動への充実感や達成感がもてるようにします。

### 1 学習の効果

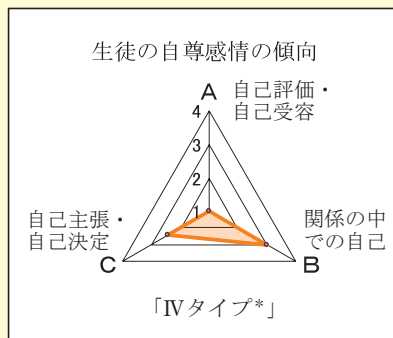
#### 【学習後の自己評価から】

〈質問〉自分の取組に満足している。



#### 〈考察〉

肯定的な回答が93%あり、学習の効果があつたことがうかがえる。学習後の感想には、「ありがとう」「頑張ってるね」というお客さんからの言葉掛けが励みになったという記述が多く見られ、直接的な人との関わりが充実感や達成感につながつたと考えられる。



#### 〈学習後の生徒の感想〉

暑い中での活動だったので、のどが渇くし汗も止まらず大変でしたが、野菜を買ってくれた方から「ありがとう」「頑張ってる」と言われ、最後まで頑張りました。また、3人で仕事分担を工夫し、チームワークよく仕事ができるようになりました。



#### 〈考察〉

人と関わりながら意欲的に活動を進め、自分の取組に満足することができたと考えられる。

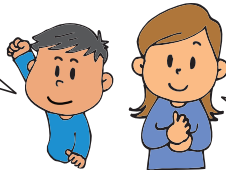
### 【コラム】学校・家庭・地域とともに取り組む体験活動の工夫 ～小学校 地域キャンプ～

A市では市教育委員会、学校・家庭・地域が連携し、夏季休業日中に小学校5・6年生を対象にして、校庭で1泊2日のキャンプを実施しています。この取組は、A市立小学校全校で実施されています。

地域キャンプでは、校庭にテントを張り、キャンプファイヤーやカレーライス作り、防災プログラムを実施しました。子供たちは、いつも一緒に遊ぶ友達や学校の教職員だけではなく、様々な地域の人と関わり、様々な体験をしています。

#### 〈児童の感想〉

地域の方からは、人を思いやったり、みんなで助け合ったりすることや自分勝手なことをしないということを教えてもらいました。私は、様々な人に支えてもらって成長してきたのだということが分かりました。



#### 〈地域の方の感想〉

地域には、たくさんの子供がいることが分かりました。これからも、地域の子供たちを学校と一緒に育てていきたいです。また、子供たちや学校の先生と活動することで、学校の教育活動の様子がよく分かりました。

\*タイプについては、指導資料【基礎編】13～15ページを参照

## (12) 課題探究型の学習や体験学習の工夫 【特に重点とする観点 「A 自己評価・自己受容」、「C 自己主張・自己決定」】

### 実践事例 12 東京都教職員研修センターの事業「東京未来塾」

東京都教職員研修センターの「東京未来塾」事業では、日本の将来を担い、社会に貢献する志をもつリーダーとなることを目指して入塾した高等学校3年生（以下、塾生と表記）を対象に、「ゼミナール（課題探究型の学習）」や「体験学習」等の講座\*を開いています。

#### 1 東京未来塾の目的

首都大学東京と高等学校等との連携を通して、日本の将来を担い得る改革型リーダーとしての資質をもつ人材を育成する。

#### 2 東京未来塾の目指す生徒像

- 社会の課題に目を向け、その解決のため自らの生涯を捧げる志をもつ生徒
- 様々な分野の知識を融合して、問題を解決できる大局観と論理性をもつ生徒

#### 3 東京未来塾の講座例

#### ゼミナール（課題探究型の学習）



自ら設定した課題について調査・研究し、成果を発表する学習を通して、主体的に探究する態度と力を身に付けることをねらいとしています。自分の興味・関心の高い研究分野（環境・自然、情報・技術、文化・教育、国際社会、政治・経済、医療・福祉）の中から、社会の課題解決に向けた研究の課題を設定します。写真は、中間報告会の様子です。

#### 体験学習



企業で学んだ接客の仕方を紹介する生徒

企業等における就業体験を通して、社会に関する見識を深め、社会貢献の志を高めことをねらいとしています。平成23年度は6つの企業等で就業体験を行い、経験した内容をもとに、勤労の意義や企業の社会貢献活動について考察を行い、自らの社会貢献について考えていきました。写真は体験報告会の様子です。

\*東京未来塾は、課題解決学習、ゼミナール、特別講義、体験学習の講座で構成しています。

## 4 学習の効果

### (1) 生徒全体の変容

#### ①各観点の変容

観点	9月	12月
A 自己評価・自己受容	2.66	2.80
B 関係の中での自己	3.28	3.26
C 自己主張・自己決定	3.08	3.16

(4点満点)

#### ②特に大きく上がった項目

観点	項目	9月	12月
A	問1 私は今の自分に満足している	2.07	2.73
A	問4 私は自分のことが好きである	2.48	2.77
C	問6 自分の中には様々な可能性がある	2.93	3.15
A	問10 私は自分という存在が大切に思える	2.96	3.15

(4点満点)

### (2) 学習後の塾生の感想

社会の課題に対する関心が高まりました

- 調査していくうちにもっと知りたいと思うようになり、今まで読まなかった新聞や本も読むようになりました。
- 日常生活の何気ない出来事や情報も、自分の課題と照らし合わせて考えるようになりました。



広い視野と論理性をもって課題解決ができるようになりました。

- 一つの物事や事件の裏側や影響している周りのことを深く考えられるようになりました。
- 課題を解決するために、どのような方法で追究していけばよいのか考えることができるようになりました。

### (3) 考察

課題探究型の学習等を通して、社会の課題に対する関心を高め、自ら解決していこうとする意欲が高まりました。また、様々な分野の知識を基に、広い視野と論理性をもって課題解決していく力が育ちました。こうした意欲や資質・能力の向上が、主体的な学習活動につながり、「自己評価シート」の問1「今の自分に満足している」、問6「自分の中には様々な可能性がある」などの得点が上がった要因になっていると推察できます。

課題探究型の学習や体験学習を効果的に教育活動に取り入れることは、自尊感情や自己肯定感を高めることに有効であると考えられます。

